

令和7年度

白岡市教育委員会の 点検・評価報告書



令和8年5月

白岡市教育委員会

目 次

白岡市教育委員会教育委員名簿	1
I 点検・評価の趣旨	2
II 点検・評価の対象	3
III 点検・評価の方法	3
IV 点検・評価の構成	4
1 点検・評価の項目	
2 実施スケジュール	
3 議会への報告	
4 一般への公表	
V 達成度及び評価結果の判断基準	6
1 達成度の判断基準	
2 評価結果の判断基準	
VI 教育委員会会議の開催状況	7
VII 白岡市教育委員会の点検・評価シート	
1 家庭・地域の教育力の向上	1 6
(1) 家庭教育活動の充実	
(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進	
2 学校教育の充実	2 6
(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成	
(2) 豊かな心、健やかな体の育成	
(3) 教職員の資質・能力の向上	
(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成	
(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備	
(6) 多様なニーズに応える教育活動	
3 社会教育の充実	5 6
(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実	
(2) 人権教育の推進	
(3) 文化・芸術活動の促進	※令和7年度から文化・スポーツ振興課へ
(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進	
(5) 生涯スポーツの普及・推進	※令和7年度から文化・スポーツ振興課へ

白岡市教育委員会教育委員名簿

令和 8 年 3 月 3 1 日現在

職 名	氏 名	任 期	備 考
教 育 長	よこ まつ しん じ 横 松 伸 二	令和 6 年 4 月 1 日から 令和 9 年 3 月 3 1 日まで	
教 育 長 職 務 代 理 者	わ だ れ い こ 和 田 玲 子	令和 4 年 1 0 月 1 日から 令和 8 年 9 月 3 0 日まで	
委 員	お の め にょ かい 小野目 如 快	令和 6 年 1 0 月 1 日から 令和 1 0 年 9 月 3 0 日まで	
委 員	ふく なが はじめ 福 永 肇	令和 5 年 4 月 1 日から 令和 9 年 3 月 3 1 日まで	
委 員	もろ おか みず ほ 諸 岡 瑞 穂	令和 7 年 1 0 月 1 日から 令和 1 1 年 9 月 3 0 日まで	

I 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、一般に公表しなければならないこととされています。

白岡市教育委員会は、この規定に基づき、より充実した教育行政を推進するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の事務に関する点検・評価を実施し、この報告書を作成しました。

〔地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

☆ どのような点検・評価を行うか、また、報告書の様式や議会への報告の方法などについては、国が基準を定めるのではなく各教育委員会がそれぞれの実情を踏まえて決定することとされています。

Ⅱ 点検・評価の対象

白岡市教育委員会は、令和４年度から令和８年度までを計画期間とし、この５年間に取り組む目標と施策を示した「第３期白岡市教育振興基本計画」を策定しています。

この計画では、「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな文化を育む～」を基本理念とし、その実現のために１１※の施策項目を掲げています。※令和７年度

また、この計画の実効性をより高めるために「令和７年度白岡市教育行政の重点施策」を策定しています。

白岡市教育委員会では、これらの計画・施策に沿って設定した事業等の取組状況について、点検評価を行いました。

Ⅲ 点検・評価の方法

白岡市教育委員会では、各事業の取組状況について、教育委員会による自己評価を行いました。

そして、この点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会自らが行った点検・評価やその方法に対して教育に関し学識経験を有するかたから、公正・的確な意見をいただきました。

令和７年度は、^{よしのたかお}吉野高男氏と^{いたがきときお}板垣時夫氏に依頼し、御意見をいただきました。

氏 名	経 歴
よしのたかお 吉野高男氏	元白岡市立小・中学校校長会会長 元白岡市立南中学校長
いたがきときお 板垣時夫氏	白岡市文化財保護審議会会長 埼玉県文化財協会副会長

IV 点検・評価の構成

1 点検・評価の項目 () 内は掲載ページ

1 家庭・地域の教育力の向上

(1) 家庭教育活動の充実

- ① 親力の育成 (1 6 P)
- ② 家庭教育活動における指導者育成 (1 8 P)

(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進

- ① 体験的な学習機会・活動の充実 (2 0 P)
- ② 放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりの推進 (2 2 P)
- ③ 地域の子育て支援活動の促進 (2 4 P)

2 学校教育の充実

(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成

- ① 確かな学力の育成 (2 6 P)
- ② 社会変化へ対応する力の育成 (2 8 P)

(2) 豊かな心、健やかな体の育成

- ① 体験活動の推進と豊かな心の育成 (3 0 P)
- ② 命を大切にする教育の推進 (3 2 P)
- ③ いじめ防止対策の推進 (3 4 P)
- ④ 心身の健康の保持増進 (3 6 P)

(3) 教職員の資質・能力の向上

- ① 教職員の資質・能力の向上 (3 8 P)
- ② 教職員の働き方改革の推進 (4 0 P)

(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成

- ① 家庭・地域・学校の連携・協働 (4 2 P)
- ② ふるさと意識の醸成 (4 4 P)

(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備

- ① 教育環境の整備・充実 (4 6 P)
- ② 安全安心の確保 (4 8 P)

(6) 多様なニーズに応える教育活動

- ① 特別支援教育の充実 (5 0 P)

- ② 不登校児童生徒への支援（５２Ｐ）
- ③ 外国人児童生徒・帰国児童生徒への支援（５３Ｐ）
- ④ 経済的支援（５４Ｐ）

３ 社会教育の充実

(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実

- ① 生涯学習活動の推進（５６Ｐ）
- ② 生涯学習施設・設備の充実（５８Ｐ）
- ③ 図書館機能の充実（６０Ｐ）
- ④ 子どもの読書活動の推進（６２Ｐ）
- ⑤ 枠組みを超えた生涯学習活動の連携強化（６４Ｐ）

(2) 人権教育の推進

- ① 人権教育推進体制の充実（６６Ｐ）
- ② 啓発活動の充実（６８Ｐ）

(3) 文化・芸術活動の促進 ※令和７年度から文化・スポーツ振興課へ

(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進

- ① 文化財の総合的把握の促進（７０Ｐ）
- ② 歴史文化の保存と継承（７２Ｐ）
- ③ 歴史文化の情報発信・普及活用の充実（７４Ｐ）
- ④ 市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用（７６Ｐ）

(5) 生涯スポーツの普及・推進 ※令和７年度から文化・スポーツ振興課へ

2 実施スケジュール

当該年度に実施・推進する施策等について、点検・評価を行い、議会への報告及び一般への公表を行います。

- (1) 5月中旬 各課等で当該年度の主な取組と目標を設定
- (2) 2月上旬 学識経験者による各課等の施策等のヒアリング
- (3) 3月下旬 ヒアリングを踏まえ、学識経験者が作成した意見書を受領
- (4) 4月 各課等で意見書を踏まえ、前年度の施策等の評価等を行い、確定
- (5) 5月 教育委員会で決定

3 議会への報告

点検・評価の結果を毎年度、直近の議会（6月）において報告します。

4 一般への公表

議会への報告後、教育委員会のホームページに掲載するとともに、閲覧用の報告書等を各公共施設に置きます。

V 達成度及び評価結果の判断基準

1 達成度の判断基準

〔目標と成果・実績とを比較・勘案して〕

- | | | |
|---|---------------|------------|
| A | … 達成している。 | （ほぼ100%達成） |
| B | … ほぼ達成している。 | （約80%達成） |
| C | … おおむね達成している。 | （約60%達成） |
| D | … 達成していない。 | （50%以下） |

2 評価結果の判断基準

〔自己点検・評価と外部評価者の意見等を勘案して〕

- | | | |
|---|--------------|------------|
| A | … 順調である。 | （ほぼ100%満足） |
| B | … おおむね順調である。 | （約80%満足） |
| C | … やや不調である。 | （約60%満足） |
| D | … 不調である。 | （50%以下） |

VI 教育委員会会議等の開催状況

～教育委員会会議～

教育委員会会議を、原則として月に1回開催し、付議事案の審議、協議及び報告などを行い、市の教育行政の方針等を決定しています。

令和7年度は定例会議を11回、臨時の会議を4回開催し、傍聴人は36人でした。

<4月定例会>

○日時 令和7年4月10日（木）午前9時

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 就学すべき学校の指定の変更について

第3 白岡市教育委員会が保有する死者情報の提供に係る
取扱要綱について

第4 専決処分の報告について（人事案件）

○議案

議案第20号 旧大山小学校公印の保存について

議案第21号 白岡市文化財保護審議会委員の委嘱について

○その他の事項

その他1 令和6年度学校評価の結果について

その他2 3月の教育委員会諸事業結果報告について

<5月定例会> ※5月6日の庁舎火災の影響により中止

<6月定例会>

○日時 令和7年6月12日（木）午前10時

○臨時代理等報告事項

第1 区域外就学について

第2 就学すべき学校の指定の変更について

第3 専決処分の報告について（補正予算）

第4 専決処分の報告について（令和6年度白岡市教育委員会
の点検・評価報告書）

第5 専決処分の報告について（英語指導助手就業規則の

一部を改正する規則)

○その他の事項

その他 5月の教育委員会諸事業結果報告について

< 6月臨時会 >

○日時 令和7年6月25日(水) 午後5時

○議案

議案第22号 白岡市立学校適正規模・適正配置審議会委員
の委嘱について

議案第23号 白岡市立学校適正規模・適正配置審議会への
諮問について

< 7月定例会 >

○日時 令和7年7月10日(木) 午前9時

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 令和7年度就学援助の認定について

第3 専決処分の報告について

第4 白岡市学校給食委員会委員の委嘱について

第5 就学支援委員会委員の委嘱について

第6 学校運営協議会委員の委嘱について

○議案

議案第24号 令和7年第4回白岡市議会臨時会提出議案
に係る意見聴取について

議案第25号 令和7年第5回白岡市議会定例会提出議案
に係る意見聴取について

○その他の事項

その他 6月の教育委員会諸事業結果報告について

< 8月臨時会 >

○日時 令和7年8月7日(木) 午前9時

○議案

議案第26号 教育財産の取得の申し出について

< 8 月定例会 >

○日時 令和 7 年 8 月 2 1 日（木）午前 9 時

○臨時代理等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 令和 7 年度就学援助の認定について

第 3 令和 6 年度白岡市一般会計決算について

第 4 専決処分の報告について

第 5 専決処分の報告について

第 6 白岡市教育委員会事務局職員（部長等を除く）の人事について

○議案

議案第 2 7 号 白岡市教育委員会事務局職員の自家用自動車の公務使用に関する取扱規程

議案第 2 8 号 令和 7 年第 5 回白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

○その他の事項

その他 1 学校給食委員会の意見聴取結果について

その他 2 7 月の教育委員会諸事業結果報告について

< 9 月臨時会 >

○日時 令和 7 年 9 月 8 日（木）午前 9 時 3 0 分

○議案

議案第 2 9 号 白岡市立小・中学校県費負担教職員の人事に関する内申について

< 9 月定例会 >

○日時 令和 7 年 9 月 2 5 日（木）午前 1 0 時

○委任事務等報告事項

第 1 就学すべき学校の指定の変更について

第 2 令和 7 年度就学援助の認定について

第 3 白岡市教育委員会事務局職員（部長等を除く）の人事について

第 4 9 月議会定例会一般質問について

第 5 令和 7 年度白岡市放課後子ども教室コーディネーター
一（篠津小学校）の委嘱について

第 6 専決処分の報告について

○議案

議案第 3 0 号 白岡市教育委員会事務局職員（部長等）の人事について

議案第 3 1 号 令和 8 年度当初白岡市教職員人事異動方針及び令和 8 年度当初白岡市立小・中学校教職員人事異動方針細部事項について

議案第 3 2 号 白岡市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則

議案第 3 3 号 白岡市立小・中学校職員管理規則の一部を改正する規則

○その他の事項

その他 1 8 月の教育委員会諸事業結果報告について

< 1 0 月定例会 >

○日時 令和 7 年 1 0 月 1 6 日（木）午前 9 時 3 0 分

○委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 令和 7 年度就学援助の認定について

第 4 専決処分の報告について

○議案

議案 3 4 号 白岡市生涯学習センター条例施行規則の一部を改正する規則

議案 3 5 号 白岡市教育委員会公印規則の一部を改正する規則

議案 3 6 号 白岡市教育委員会教育長の権限に属する事務の決裁等に関する規程の一部を改正する訓令

議案 3 7 号 白岡市生涯学習センター指定管理者選定委員会設置規程を制定する訓令

議案 3 8 号 白岡市生涯学習センターギャラリー利用要綱の一部を改正する告示

議案 3 9 号 白岡市生涯学習センター防犯カメラの設置及び

運用に関する要綱の一部を改正する告示

○その他の事項

その他 1 9月の教育委員会諸事業結果報告について

< 11月定例会 >

○日時 令和7年11月20日（木）午前9時30分

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 就学すべき学校の指定の変更について

第3 令和7年度就学援助の認定について

第4 専決処分の報告について

○議案

議案第40号 令和7年第7回（12月）白岡市議会定例会
提出議案に係る意見聴取について

○その他の事項

その他 1 10月の教育委員会諸事業結果報告について

その他 2 第2期白岡市文化財保存活用地域計画（案）に対するパブリックコメントの実施について

< 12月定例会 >

○日時 令和7年12月25日（木）午前9時30分

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第2 就学すべき学校の指定の変更について

第3 令和7年度就学援助の認定について

第4 12月議会定例会の一般質問について

○その他の事項

その他 1 令和7年度二十歳のつどいについて

その他 2 教育委員会諸事業結果報告について

< 1月定例会 >

○日時 令和8年1月15日（木）午前9時30分

○委任事務等報告事項

第1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 令和 8 年度小学校入学予定者に対する新入学児童生徒学用品費等の入学前支給の認定について

第 4 専決処分の報告について

○その他の事項

その他 1 教育委員会諸事業結果報告について

その他 2 令和 7 年度二十歳のつどいの実施報告について

< 2 月定例会 >

○日時 令和 8 年 2 月 1 2 日（木）午前 9 時 3 0 分

○委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 令和 7 年度就学援助の認定について

第 4 専決処分の報告について

第 5 白岡市子ども読書活動推進計画の計画期間の延長について

○議案

議案第 1 号 白岡市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則について

議案第 2 号 白岡市地域クラブ活動受益者負担額支援補助金交付要綱について

議案第 3 号 令和 8 年第 2 回（3 月）白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

議案第 4 号 令和 8 年第 2 回（3 月）白岡市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

議案第 5 号 白岡市教育委員会事務局職員（部長等）の人事について

○その他の事項

その他 1 教育委員会諸事業結果報告について

その他 2 令和 8 年度第 2 回白岡市議会定例会における報告事項について

< 3 月 臨時会 >

○日時 令和 8 年 3 月 1 8 日（水）午後 2 時

○委任事務等報告事項

第 1 令和 8 年度当初白岡市教職員人事異動について

第 2 白岡市教育委員会事務局職員（部長等を除く）の人事
について

○議案

議案第 7 号 白岡市教育委員会事務局職員（部長等）の人事
について

< 3 月 定例会 >

○日時 令和 8 年 3 月 1 9 日（木）午前 9 時 3 0 分

○委任事務等報告事項

第 1 区域外就学について

第 2 就学すべき学校の指定の変更について

第 3 3 月議会定例会の一般質問について

○議案

議案第 8 号 令和 8 年度白岡市教育行政の重点施策について

議案第 9 号 白岡市立学校の教育職員に関する業務量管理・
健康確保措置実施計画の策定について

議案第 1 0 号 文化財の市指定及び市登録について

○その他の事項

その他 1 教育委員会諸事業結果報告について

～教育委員研修会～

教育委員会において活発な議論がされ、適切な判断がなされるよう、当面する教育行政の課題について理解を深めることの一助とし、研修会を開催しました。

○日 時 令和 7 年 4 月 1 7 日（木）

○議 題 白岡市生涯学習センターの施設見学

○日 時 令和 7 年 7 月 1 7 日（木）
○議 題 白岡市立学校適正規模・適正配置等計画の策定にかかる令和 7 年度の取組について

○日 時 令和 7 年 8 月 7 日（木）
○議 題 白岡市生涯学習センターの運営方針について

○日 時 令和 7 年 1 1 月 6 日（木）
○議 題 (1) 白岡市立学校適正規模・適正配置等計画の策定について
(2) 白岡市立学校における盗撮防止等ガイドラインについて

○日 時 令和 8 年 1 月 2 9 日（木）
○議 題 (1) 白岡市スポーツ推進計画について
(2) 白岡市立学校適正規模・適正配置等計画について

○日 時 令和 8 年 3 月 1 2 日（木）
○議 題 (1) 第 4 期白岡市教育振興基本計画について
(2) 白岡市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
(3) 白岡市立学校適正規模・適正配置等計画について

～総合教育会議～

総合教育会議は、首長、教育委員会で構成され、首長が招集する会議です。当市における教育の現状と課題等を共有し、教育行政の一層の充実・発展を図ることを目的としています。

○日 時 令和 7 年 6 月 2 5 日（水）
○議 題 白岡市のこれからの学校教育について

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(1) 家庭教育活動の充実
施策の方向	① 親力の育成
主な取組	1 家庭教育学級、家庭教育学級合同講座の充実 2 「親の学習」講座の充実 3 家庭教育学級への支援
目標	家庭や地域の教育力の向上を図るため、家庭教育学級を各小・中学校に委託し開催していただくとともに、教育委員会主催の家庭教育学級合同講座を2回開催します。 なお、より多くの保護者に参加していただけるような開催方法について検討し工夫していきます。 また、「親の学習」講座については、受講者アンケートの結果を反映した講座内容を検討し、一層の充実を図ります。 さらに、「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して、より多くの保護者に家庭教育や子育てに関する情報を提供できるよう努めます。
事業実績・成果	1 家庭教育学級、家庭教育学級合同講座の充実【重点】 家庭教育学級を各小・中学校に委託し開催するとともに、教育委員会主催で家庭教育学級合同講座を2回開催しました。 このことにより、親力を養い、地域で安心して子育てができる環境を整備することを目的とした家庭や地域の教育力の向上が図られました。 (1) 各小・中学校家庭教育学級 ・篠津小学校 1回 17名参加 ・菁莪小学校 2回 16名参加 ・南小学校 2回 57名参加 ・西小学校 2回 94名参加 ・白岡東小学校 1回 32名参加 ・篠津中学校 1回 12名参加 ・菁莪中学校 2回 19名参加 ・南中学校 2回 30名参加 ・白岡中学校 2回 53名参加 ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合（247人中245人・99.2%（未回答83人）） (2) 令和7年度家庭教育学級開講式及び第1回合同講座の開催 ア 演 題 「こどもの“心と体”を育む親のまなざし ～毎日のかかわりが未来をつくる～」 イ 講 師 埼玉県立大学 上原美子 教授 ウ 開 催 日 7月4日（金） エ 参加者数 58名 ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合（57人中51人・89.5%（未回答1人））

事業実績 ・成果	(3) 家庭教育学級第2回合同講座・青少年育成推進大会の開催 ア 演 題 ①「日本赤十字社の活動について」 ②「災害エスノグラフィー～災害の迫体験から学ぶ～」 イ 講 師 日本赤十字社 埼玉県支部 ①振興課 振興課長 山田 祐一 氏 ②振興課 会員係長 藤崎 香奈恵 氏、 指導員 西尾 英二 氏、倉知 拓也 氏 ウ 開催日 11月12日(水) エ 参加者数 74人(学校関係者25人、福祉関係者46人、その他3人) ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合(74人中71人・95.9%)
	2 「親の学習」講座の充実 来年度の小学校新入学児の保護者を対象に、就学時健診の待ち時間を活用し、「親の学習」講座を開催しました。 また、家庭教育アドバイザーと協力し、レジュメ(①子育ての目安「3つのめばえ」、②スマホ・タブレットの利用の注意)を作成し、講義を行いました。 このことにより、親が必要とする知識を習得するための学習の場を提供し、家庭の教育力の向上が図られました。 ・篠津小学校 10月 7日 70名参加 ・菁莪小学校 9月29日 27名参加 ・南小学校 9月30日 85名参加 ・西小学校 11月11日 111名参加 ・白岡東小学校 10月28日 74名参加 ※「参考になった」、「少し参考になった」と回答した保護者数・割合(293人中238人81.2%) (白岡東小学校アンケート未実施)
	3 家庭教育学級への支援 各小・中学校に上限40,000円の委託金を交付するとともに、テーマや学習内容に係る相談、講師選定等についての助言や情報提供を行うなど、各小・中学校の家庭教育学級の運営を支援しました。 このことにより、地域社会が一体となった教育力の向上が図られました。
達成度	B
学識経験者の意見	家庭教育学級の合同講座が、今年度も2回実施された。いずれも子育て世代に関心の高いテーマで行われた。アンケート結果から参加者の満足度が高かったことがうかがわれる。今後の家庭教育学級の実践の参考になれば有益であろう。多くの方が参加されるように、事前に開催日程の調整などを図っていただきたい。 市内の5小学校の就学時健康診断時に実施した「親の学習」講座は、親が必要とする知識の習得するための学習の場として役立つよう努めてほしい。
課題 今後の対応方針	各小・中学校における家庭教育学級への参加意欲を高めるためには、子育て世代の関心の高いテーマ設定や開催日時の調整が重要です。 各小・中学校に対し、今後も助言や情報提供に努め、実りある家庭教育学級となるようサポート体制の充実を図ります。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(1) 家庭教育活動の充実
施策の方向	② 家庭教育活動における指導者育成
主な取組	1 家庭教育学級担当者打合せ会でのグループワークの実施 2 各小・中学校へ委託している家庭教育学級への家庭教育アドバイザーの派遣 3 「親の学習」講座への家庭教育アドバイザーの派遣 4 家庭教育アドバイザー情報交換会の実施
目標	家庭教育学級や「親の学習」講座へ家庭教育アドバイザーを派遣し、家庭教育活動の充実に図ります。 また、家庭教育アドバイザーに対しては、家庭教育アドバイザー情報交換会を実施し、家庭教育アドバイザーとの連携を図るとともに、県主催の家庭教育アドバイザー研修会への積極的な参加を促すなど、家庭教育学級や「親の学習」講座の内容を充実させることができるよう支援を行います。
事業実績・成果	1 家庭教育学級担当者打合せ会でのグループワークの実施 家庭教育アドバイザー情報交換会で調整を行い、家庭教育学級担当者打合せ会でのグループワークは実施しませんでした。 2 各小・中学校へ委託している家庭教育学級への家庭教育アドバイザーの派遣 令和7年度は、家庭教育学級への派遣はありませんでした。 3 「親の学習」講座への家庭教育アドバイザーの派遣 来年度の小学校新入学児の保護者を対象とした「親の学習」講座の開催に際し、家庭教育アドバイザーを派遣しました。 このことにより、家庭教育活動の充実に図られました。 ・篠津小学校 10月7日 動画 ・菁莪小学校 9月29日 動画 ・南小学校 9月30日 講師1名派遣 ・西小学校 11月11日 動画 ・白岡東小学校 10月28日 動画 4 家庭教育アドバイザー情報交換会の実施 市内在住の埼玉県家庭教育アドバイザーに登録されている方を対象に情報交換会を開催し、「親の学習」講座開催に向けた講義内容やレジュメ（①子育ての目安「3つのめばえ」、②スマホ・タブレットの利用の注意）を作成、配布しました。 ・第1回情報交換会 中止 ・第2回情報交換会 3月18日
達成度	B
学識経験者の意見	市内の5小学校の就学時健康診断時に実施した「親の学習」講座では、DVDの視聴や家庭教育アドバイザーの派遣がされた。 DVDの視聴により小学校生活を迎えるに当たっての準備や心構え、アドバイザーからは小学校課程での保護者の関わりについて助言があり、今後の子育てに役立てることができた。 また、市内在住の埼玉県家庭教育アドバイザーに登録されている方を対象とした情報交換会が開催された。家庭教育アドバイザー間で課題を共有し、経験を蓄積する場となることを期待する。 今後も各PTAと連携・協力しながら家庭教育アドバイザーとしてのスキルアップを図るとともに、その機能を確実に発揮できるよう努めてほしい。
課題 今後の対応方針	家庭教育アドバイザー情報交換会は、多様な視点の獲得や専門性の向上、人的ネットワークの構築、モチベーションの維持など、多方面でのメリットをもたらします。 今後も、家庭教育アドバイザー情報交換会の実施を通して、模擬講座を行うことなど、より家庭教育アドバイザーのスキルアップを図り、また、家庭教育アドバイザーの派遣などによって、その機能を発揮できる機会を設け、家庭教育学級や「親の学習」講座の充実に図ります。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進
施策の方向	① 体験的な学習機会・活動の充実
主な取組	1 田んぼの学校の開催 2 自然観察会の開催 3 体験活動に係る事業の開催 4 いきいきkidsの発行
目標	田んぼの学校、自然観察会等を中心に、引き続き体験的な学習機会を提供していきます。 また、自然ふれあい体験教室については、内容や開催日、会場を工夫するなど、日帰りの体験活動にすることで、より安全でニーズに合った事業内容を検討し、より多くの人にとって参加しやすい内容とします。
事業実績・成果	1 田んぼの学校の開催 全4回(連続講座) 農家の方等の指導のもと、米作りを行うことにより、親子で食べ物大切さや農業の大変さを学ぶ機会を提供し、食育の一端を担うことができました。 (1) 田植え体験 天候不順により中止 (2) 田んぼの自然観察 6月8日(日) 7組23人 (3) 稲刈り体験 9月7日(日) 6組14人 (4) しめ縄づくり・お米の試食会 11月9日(日) 7組19人 延べ 20組56人
	2 自然観察会の開催 全3回 親子で自然体験を共有し絆を強め、児童生徒の世代間や異年齢交流を促す活動の機会を提供することができました。 (1) 夜の昆虫観察会 7月12日(土) 5組14人 (2) 甲虫の標本を作ろう 8月24日(日) 7組15人 (3) ひこべえの森 冬のつどい 12月13日(土) 6組6人 延べ 95人
	3 体験活動に係る事業の開催 (1) わいわい料理教室 全3回 親子で楽しみながら調理を行うわいわい料理教室の開催により、親子の絆を深めるとともに、料理の大変さや食べ物大切さを身をもって実感し、食への感謝をすることで、食育の一端を担うことができました。 また、料理をすることによって五感が養われ、子どもの感覚を育てる成長の機会を提供することができました。 ア ピザづくり 7月12日(土) 5組14人 7月26日(土) 3組9人 イ うどん打ち 9月27日(土) 5組13人 延べ 13組36人 (2) 「親子で工作、サイエンスショーを楽しもう」 日本工業大学との連携協定に基づき、小学校高学年の親子を対象とした体験教室を日本工業大学で実施し、科学に対する知見や好奇心を高めることができました。 3月7日(土) 8組11人
	4 いきいきkidsの発行 市としてDXを推進していることから、紙ベースであるいきいきkidsの発行は行わず、市公式ホームページやSNSの活用をすることで、多くの方に事業の周知を図ることができました。
達成度	B

学識経験者の意見	白岡市は自然環境に恵まれているが、自然に親しみながら体験的な学習機会は少ないように思われる。そのような中で行われる田んぼの学校、自然観察会、わいわい料理教室の体験的な取り組みは大変意義あるものである。 田んぼの学校は田植えから稲刈り、収穫した稲藁からしめ縄作りと試食会などを通し、主食である米に対する理解を深める大変よい企画である。今後も継続してほしい。 さまざまな体験学習に積極的に取り組んでいるが、全体的に参加が少ないのが課題である。そこで日程設定などを参加者の動向を考慮しながら、多くの子どもたちが参加できるよう工夫して、これらの取り組みが継続されることを望む。
課題 今後の対応方針	体験教室参加への周知を図る情報発信については、広報しらおかのほかに市公式ホームページや市公式LINE等の活用を図り、多くの保護者が情報を得て、多くの子どもたちが参加できるよう情報提供を推進していきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上																																																																
施策項目	(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進																																																																
施策の方向	②放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりの推進																																																																
主な取組	1 放課後子ども教室の充実・拡大																																																																
目標	菁莪小学校、白岡東小学校及び新たに篠津小学校において、放課後に教室等を活用し、子どもたちが安心して過ごせる居場所を設けて、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する教室を開催します。（菁莪小学校：年 16 回、白岡東小学校：16 回、篠津小学校：8 回）																																																																
事業実績・成果	1 放課後子ども教室の充実・拡大 菁莪小学校、白岡東小学校及び篠津小学校において、放課後子ども教室を開催しました。このことにより、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに成長していく環境づくりを推進し、地域の子育てネットワークを構築することができました。 (1) 菁莪小学校 (参加児童数：47 名（1～3 年生：23 名、4～6 年生：24 名）) <table><tr><td>ア</td><td>ドッジビー</td><td>6 月 4 日</td><td>22 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>7 月 2 日</td><td>22 名（4～6 年生）</td></tr><tr><td>イ</td><td>マーブルング</td><td>7 月 9 日</td><td>23 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>7 月 16 日</td><td>23 名（4～6 年生）</td></tr><tr><td>ウ</td><td>牛乳パック工作</td><td>9 月 10 日</td><td>19 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>9 月 17 日</td><td>21 名（4～6 年生）</td></tr><tr><td>エ</td><td>モルック教室</td><td>10 月 15 日</td><td>19 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>10 月 29 日</td><td>20 名（4～6 年生）</td></tr><tr><td>オ</td><td>理科工作</td><td>11 月 5 日</td><td>22 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>11 月 19 日</td><td>23 名（4～6 年生）</td></tr><tr><td>カ</td><td>ペットボトル工作</td><td>11 月 26 日</td><td>22 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>12 月 17 日</td><td>18 名（4～6 年生）</td></tr><tr><td>キ</td><td>車いすバスケット体験</td><td>1 月 14 日</td><td>20 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>1 月 28 日</td><td>19 名（4～6 年生）</td></tr><tr><td>ク</td><td>漢字釣り</td><td>2 月 4 日</td><td>9 名（1～3 年生）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>2 月 18 日</td><td>14 名（4～6 年生）</td></tr></table> ※「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した児童数・割合（47 人中 20 人・42.6％（未回答 27 人））、「来年度も参加したい」と回答した児童数・割合（47 人中 17 人・36.2％（未回答 27 人、回答者のうち小 6 は 3 人））	ア	ドッジビー	6 月 4 日	22 名（1～3 年生）			7 月 2 日	22 名（4～6 年生）	イ	マーブルング	7 月 9 日	23 名（1～3 年生）			7 月 16 日	23 名（4～6 年生）	ウ	牛乳パック工作	9 月 10 日	19 名（1～3 年生）			9 月 17 日	21 名（4～6 年生）	エ	モルック教室	10 月 15 日	19 名（1～3 年生）			10 月 29 日	20 名（4～6 年生）	オ	理科工作	11 月 5 日	22 名（1～3 年生）			11 月 19 日	23 名（4～6 年生）	カ	ペットボトル工作	11 月 26 日	22 名（1～3 年生）			12 月 17 日	18 名（4～6 年生）	キ	車いすバスケット体験	1 月 14 日	20 名（1～3 年生）			1 月 28 日	19 名（4～6 年生）	ク	漢字釣り	2 月 4 日	9 名（1～3 年生）			2 月 18 日	14 名（4～6 年生）
ア	ドッジビー	6 月 4 日	22 名（1～3 年生）																																																														
		7 月 2 日	22 名（4～6 年生）																																																														
イ	マーブルング	7 月 9 日	23 名（1～3 年生）																																																														
		7 月 16 日	23 名（4～6 年生）																																																														
ウ	牛乳パック工作	9 月 10 日	19 名（1～3 年生）																																																														
		9 月 17 日	21 名（4～6 年生）																																																														
エ	モルック教室	10 月 15 日	19 名（1～3 年生）																																																														
		10 月 29 日	20 名（4～6 年生）																																																														
オ	理科工作	11 月 5 日	22 名（1～3 年生）																																																														
		11 月 19 日	23 名（4～6 年生）																																																														
カ	ペットボトル工作	11 月 26 日	22 名（1～3 年生）																																																														
		12 月 17 日	18 名（4～6 年生）																																																														
キ	車いすバスケット体験	1 月 14 日	20 名（1～3 年生）																																																														
		1 月 28 日	19 名（4～6 年生）																																																														
ク	漢字釣り	2 月 4 日	9 名（1～3 年生）																																																														
		2 月 18 日	14 名（4～6 年生）																																																														

事業実績 ・成果	(2) 白岡東小学校 (参加児童数：33名（1～2年生：14名、3～6年生：19名））
	ア レクリエーション 6月12日 12名（1～2年生） 6月20日 18名（3～6年生）
	イ 牛乳パック工作 7月4日 12名（1～2年生） 7月15日 19名（3～6年生）
	ウ ボッチャ 9月2日 13名（1～2年生） 9月19日 19名（3～6年生）
	エ 茶道体験 10月7日 14名（1～2年生） 10月18日 18名（3～6年生）
	オ ペットボトル空気砲 11月6日 14名（1～2年生） 11月28日 18名（3～6年生）
	カ クリスマスリース作り 12月2日 11名（1～2年生） 12月18日 19名（3～6年生）
	キ 漢字釣り 1月20日 14名（1～2年生） 1月28日 15名（3～6年生）
	ク ドッジビー 2月3日 14名（1～2年生） 2月16日 17名（3～6年生）
	※「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した児童数・割合（33人中15人・45.5%（未回答17人））、「来年度も参加したい」と回答した児童数・割合（33人中11人・33.3%（未回答17人、回答者のうち小6は0人））
(3) 篠津小学校 (参加児童数：18名)	
ア レクリエーション 9月19日 17名	
イ 牛乳パック工作 9月26日 15名	
ウ ペットボトル空気砲 10月24日 16名	
エ 宝とり鬼 11月13日 10名	
オ しめ縄づくり 11月21日 13名	
カ 年賀状作り 12月19日 12名	
キ うどん打ち 1月30日 15名	
ク ドッジビー 2月20日 15名	
※「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した児童数・割合（18人中11人・61.1%（未回答7人））、「来年度も参加したい」と回答した児童数・割合（18人中11人・61.1%（未回答7人、回答者のうち小6は0人））	
達成度	A
学識経験者の意見	放課後子ども教室は、今年度は新たに篠津小学校が加わり、菟我小学校、白岡東小学校の3校で実施されたことは評価できる。年間に実施されたプログラムは、マーブリング、茶道教室、ペットボトル工作、うどん打ちなど多彩な内容であった。これだけのプログラムを計画、準備、実施する組織が各学校のコーディネーターやサポーター、さらにはボランティアで構成されていることは評価に値する。 子どもたちを地域の大人たちが見守っている安心感があり、参加した子供たちにとっては授業や家庭では体験できないことを楽しめることで満足度も高いと思われる。スタッフ、ボランティア等が事業運営に尽力していることを評価するとともに、この事業が地域の子育てネットワークの構築の推進に寄与し、市内全ての小学校で実施されることを期待する。
課題 今後の対応方針	放課後子ども教室を全ての小学校区で実施することを目標として、今後も放課後子ども教室の充実・拡大を図っていきます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	1 家庭・地域の教育力の向上
施策項目	(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進
施策の方向	③地域の子育て支援活動の促進
主な取組	1 子育て・家庭教育に関わる団体（組織）との連携・協力
目標	子育て・家庭教育に関わる団体（組織）同士が課題を共有し、協力しながら活動できるよう団体間の交流の機会を設けるほか、共同事業を実施します。 また、子育て・家庭教育に関わる団体（組織）と連携・協力し、地域一体となった子育て支援活動を促進します。
事業実績・成果	1 子育て・家庭教育に関わる団体（組織）との連携・協力 地域の子育て支援組織である「町ぐるみん白岡」との共催により、「ひこべえの森冬のつどい」事業を活用し、おやじの会交流会を開催しました。 このことにより、各小・中学校各団体の課題を共有し、各団体同士の連携を深めることができ、地域一体となった子育て支援活動の促進が図られました。 また、地域の子育て支援組織である A S C により 菁莪小学校でモルック教室を実施しました。 3 月には、地域の方と 菁莪中学校の生徒が交流を深めるため、「町ぐるみん白岡」との共催により、トークフォークダンスを開催しました。 このことにより、家庭・地域・学校が一体となった子育て支援活動の促進が図られました。 (1) 学校応援団交流会 (今年度は実施なし) (2) おやじの会交流会 1 2 月 1 3 日 4 名 (篠津中学校 2 名、南小学校 2 名) ひこべえの森冬のつどい内で実施 (3) モルック教室 (放課後子ども教室として実施) (再掲) ・ 菁莪小学校 1 0 月 1 5 日 1 9 名 (1 ～ 3 年生) 1 0 月 2 9 日 2 0 名 (4 ～ 6 年生) (4) トークフォークダンス ・ 菁莪中学校 3 月 4 日 3 6 名 (生徒) 4 8 名 (大人)
達成度	B
学識経験者の意見	地域の子育て・家庭教育に関わる団体間での課題の共有、交流や共同事業は地域の子育て力のアップに必要なことである。このような中で地域の子育て組織である「町ぐるみん白岡」と「おやじの会」との交流会等の開催を通じ、地域が一体となった子育て支援活動が推進できたことを評価する。また、昨年度から実施しているトークフォークダンスは中学生と地域の大人たちとの交流の場として評価する。 「ひこべえ森冬のつどい」での交流会は、市内の子育て支援団体、家庭教育に関わる団体だけでなく市内の中学生も参加した事業として実施されたもので評価する。 今後もこうした子育て、家庭教育にかかわる団体の担い手を充足させることにも注力し、イベント等を通じて交流を深めて、地域が一体となった子育て支援の輪を広げる努力を続けてほしい。
課題 今後の対応方針	子育て・家庭教育に関わる団体や組織間で課題や情報を共有し、協力しながら活動できるよう団体間の交流の機会をイベント等を通して設けるなど、今後も子育て・家庭教育に関わる団体等と連携・協力し、地域一体で子育て支援活動を促進していきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成
施策の方向	①確かな学力の育成
主な取組	1 課題発見・解決能力の育成 2 主体的・対話的で深い学びの充実 3 少人数指導の充実 4 教育補助員、I C T 支援員の活用・拡充 5 全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査の結果の分析と指導方法改善 6 教育課程研究推進委員会の開催
目標	児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実や、1人1台端末を活用して個別最適化した学びの充実など基礎・基本の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを充実し、課題発見・解決能力を育成していきます。また、そのための環境整備の充実に努めます。
事業実績・成果	1 課題発見・解決能力の育成 課題発見・解決能力の育成のため、市内全ての小・中学校において、学校研究課題を設定し、研究を進めました。校内研修に位置付けることにより、教職員全員の課題発見・解決能力の育成を図ることができました。 ・篠津小学校・・・児童一人一人が「わかる・できる」を実感できる指導法の工夫～国語科・算数科を通して～ ・菁莪小学校・・・「非認知能力の向上」と「効果的な学習方略の獲得」を目指した学級経営 ・南小学校・・・進んで、課題解決できる児童の育成～自律的に学ぶための指導法の工夫～（算数科） ・西小学校・・・自ら学び続け、互いに認め、高め合える西小っ子の育成～主体的・対話的な学びの充実を目指して～ ・白岡東小学校・・・認め合い、高め合い、未来を切り拓く児童の育成～学級経営を基盤とした主体的・対話的で深い学びの実現～ ・篠津中学校・・・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～誰一人取り残さない指導の工夫～ ・菁莪中学校・・・「なりたい自分に向かって自ら学ぶ生徒の育成」～生徒一人一人の「見通す力」「自分を律する力」の伸長を ・南中学校・・・自ら考え、共に成長する学びの創造 ・白岡中学校・・・子どもたちの可能性を引き出すための学びの実現を目指して～I C T 機器を利用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」～ 2 主体的・対話的で深い学びの充実【重点】 主体的・対話的で深い学びの充実を図るため、1人1台端末を活用した、「授業づくりの原点」に立ち戻って考えるような研修を各校において進めています。このことにより、「児童生徒の思考がどのように広がり、深まっていくのか」「児童生徒にどのような支援が必要なのか」「個別、協働、一斉をどのように授業に取り入れるのか」等、授業づくりの研修の充実を図ることができました。 3 少人数指導の充実 少人数指導の充実のため、小学校4名、中学校6名配置している教科指導充実加配や、小学校1名、中学校3名配置している会計年度任用職員（教科指導補助・市費）を適切に活用しています。このことにより、児童生徒の学力向上を図ることができました。

事業実績 ・成果	4 教育補助員、I C T支援員の活用・拡充 市内小・中学校の現状を把握し、教育補助員、I C T支援員の活用・拡充を行いました。 このことにより、児童生徒一人一人のニーズに応じた支援を図ることができました。 ・生活の補助 小学校13名、中学校8名 ・理科支援員 全ての小学校に配置（3名） ・図書館補助 全ての小・中学校に配置（3名） ・日本語指導 対象の学校に配置（3名） ・教科指導補助 対象の学校に配置（3名） ・支援相談員 全ての小学校に配置（6名） ・さわやか相談員 全ての中学校に配置（4名） ・I C T支援員 全ての小・中学校にて支援（3名）
	5 全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査の結果の分析と指導方法改善 「全国学力・学習状況調査」及び「県学力・学習状況調査」の結果分析と指導方法の改善を各校で実施しました。また、校長会・教頭会において、白岡市全体の結果を周知し、指導方法改善に向けた具体的な取り組み方法についても指導をしています。このことにより、各校において学力向上の視点を踏まえた校内研修の充実が図られました。
	6 教育課程研究推進委員会の開催 令和7年度教育課程研究推進委員会を9月2日（火）、12月16日（火）に開催しました。 このことにより、小・中学校の学力向上、働き方改革、教育課程編成について共通理解を図るとともに、各校の授業・研修に生かすことができました。 【内容】 ①授業改善について ②働き方改革の推進について ③教育課程の編成について
達成度	B
学識経験者の意見	「主体的・対話的で深い学び」の充実を図るために各校で研修を推進し、課題発見・解決能力の育成を図ったことを評価する。 また、本市の児童生徒は全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、全国平均・県平均を上回り高い学力を維持している。このことを高く評価する。 今後は、「主体的・対話的で深い学び」の充実からその深化と恒常化を目指して「協働的な学び」を中心とした授業づくりの研修・実践が全ての学校において日常的に推進されることを期待する。また、1人1台端末の活用が、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の相乗的な効果により、学びを深めるための授業づくりにつながっていくよう努めてもらいたい。そして、本市の全ての教室が「誰もが互いにつながって学び合う教室」になることを一層強く願う。
課題 今後の対応方針	主体的・対話的で深い学びの充実については、今後も協働的な学びを中心とした授業づくりについて、各校において研修を深めていきます。全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、全国平均・県平均を上回ることができるよう、I C Tの活用や少人数指導の充実を今後も図っていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成
施策の方向	②社会変化へ対応する力の育成
主な取組	1 情報モラル教育、情報活用能力の育成 2 A L Tを活用した授業の充実 3 キャリア教育の充実 4 I C T支援員の活用・拡充 5 主権者教育や消費者教育の推進
目標	国際化、情報化の進展に対応するため、1人1台端末の活用など児童生徒の情報活用能力の育成を図ります。また、白岡市子どものネット利用宣言を活用し、児童生徒が自ら安全に情報を活用する姿勢を育てていくなど、情報モラル教育を推進します。A L Tを配置し、外国語科等の教科指導や国際理解教育の充実を図ります。変化し続ける社会でも生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育むため、キャリア教育の充実に努めるとともに、主権者教育、消費者教育の推進にも努めます。
事業実績・成果	1 情報モラル教育、情報活用能力の育成 白岡市子どものネット利用宣言のリンクを児童生徒の学習用iPadに貼り付け、いつでも確認ができる状態にしています。 埼玉県ネットトラブル注意報を各校に配布し、ネットトラブル防止を周知しました。その結果、児童生徒及び保護者への啓発、教職員への研修に生かすことができました。 また、I C T端末の活用に関するオンライン研修を実施しました。
	2 国際化、情報化の進展に対応するため、1人1台端末の活用など児童生徒の情報活用能力の育成を図ります。また、A L Tを配置し、外国語科等の教科指導や国際理解教育の充実を図ります。変化し続ける社会でも生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育むため、キャリア教育の充実に努めるとともに、主権者教育、消費者教育の推進にも努めます。
	3 キャリア教育の充実 職場体験を全中学校で実施しました。 このことにより、各学校において、キャリアパスポートの活用を通じて一人一人のキャリア形成につなげることができました。
	4 I C T支援員の活用 I C T支援員3名を配置し、I C T機器の整備、活用につなげました。 ・I C T支援員3名 1日5時間、週3日
	5 主権者教育や消費者教育の推進 各学校において社会科の授業を中心に主権者教育、消費者教育を推進できるようリーフレット等の活用について周知するほか、セミナーの案内をしました。 中学校では、生徒会役員選挙の際に市の選挙用記載台や投票箱を使用して選挙を行う経験をしました。 このことにより、主権者教育の理解や、消費者教育の推進を図ることができました。
達成度	B
学識経験者の意見	外国語教育、国際理解教育の充実のため、A L Tを全中学校に各1名また、小学校5校に対し2名配置し、成果をあげていることを評価する。今後は、小・中の連携や授業時以外のA L Tの積極的な活用を促し、一層質の高い活用を期待したい。さらに小学校においても全ての学校に配置できることを期待する。 1人1台端末を生かした教育活動を推進する上で、情報モラル教育は必須である。児童生徒、保護者への啓発および教職員の研修の実施などに取り組んでいることを評価する。今後、保護者への啓発活動をさらに工夫して一層広く多くの保護者に「自分事」として心に届くものになることを期待する。併せて、生成A Iの普及に対する研修並びに児童生徒への啓発指導が差し迫った課題となっている。

課題 今後の対応方針	A L Tについては、全小・中学校に配置できています。今後も積極的に活用し、外国語教育、国際理解教育を充実させていきます。 1人1台端末を始めて令和7年度は5年目となり、タブレット端末を生かした学習活動では、各学校、各教員によって様々な取組がなされ、継続的に行われています。タブレット端末を学習に活かしている一方で、タブレットによって起こる生徒指導上の問題も増えています。教育活動を推進する上で、「情報モラル教育」は必須であり、今後も、児童生徒、保護者、教職員への啓発や研修を行います。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	①体験活動の推進と豊かな心の育成
主な取組	1 道徳教育の充実と人権教育の推進 2 埼玉の子ども70万人体験活動 3 外部の指導者や講師の活用 4 保育所や高齢者福祉施設等地域との交流 5 規律ある態度の育成 6 読書活動の推進
目標	児童生徒の豊かな心を育むため、道徳の授業の充実を図るとともに埼玉の子ども70万人体験活動や地域の方々との交流などの体験活動を推進します。また、同和問題をはじめ、子ども、高齢者、障がい者、外国人、性的マイノリティ、ジェンダー等をめぐる人権問題やインターネットでの人権侵害など様々な人権課題に対応した人権教育を推進していきます。
事業実績・成果	1 道徳教育の充実と人権教育の推進【重点】 道徳教育の充実と人権教育の推進を図るため、道徳科のみならず、学校教育全体や家庭教育において様々な取組を行っています。 このことにより、学校のみならず、家庭においても、道徳教育や人権教育の推進を図ることができました。 ・いじめ防止基本方針（各校のHPで公開） ・特別の教科道徳の授業の着実な実践 ・家庭用「彩の国の道徳」の周知 ・各中学校で生徒会主体の「人権集会」の実施
	2 埼玉の子ども70万人体験活動 中学校における職場体験チャレンジや、全ての小・中学校で行われているみどりの学校ファーム等で体験活動を実施しました。 このことにより、思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観を育むなど、豊かな人間性や社会性など「生きる力」の基礎を築くことができました。
	3 外部の指導者や講師の活用 稲作体験、文化体験学習など、地域の方々を招いての交流学習を実施しました。 地域の方との交流により、「ふるさと意識の醸成」を図ることができました。
	4 保育所や高齢者福祉施設等地域との交流 中学校において、保育所体験学習を実施しました。 このことにより、思いやりの心や、親や周りの人に対する感謝の気持ちを育むことができました。
	5 規律ある態度の育成 全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、基本的な生活習慣（早寝・早起き、朝食）については、小・中学校ともに全国平均と比較して好ましい結果となっています。 各校においては、基本的な生活習慣の結果を保護者等にも周知し、さらなる定着を図ることができました。
	6 読書活動の推進 ボランティア団体による児童への読み聞かせや、生涯学習課学び合い図書館担当による児童へのブックトークが行われました。 このことにより、読書活動の推進を図ることができました。

達成度	B
学識経験者の意見	特別の教科道徳を着実に実践したことと家庭用「彩の国の道徳」の周知により、道徳教育の充実を図ったこと、そして人権教育の推進を図ったことを評価する。とりわけ、中学校で生徒会主催の「人権集会」が行われていることは意義深い。人権尊重の大切さを考える機会として全ての生徒の心に届く取組として継続されることを願う。家庭用「彩の国の道徳」については、中学校における家庭への啓発が一層求められる。
課題 今後の対応方針	体験活動を通じて、積極性や協調性、コミュニケーション力など子供たちの豊かな心を育成することを目的に、外部指導者の活用や行事の精選など、さらなる工夫が求められます。 また、道徳教育においては、推進教員を核とした授業のボトムアップが求められます。 読書活動の推進は、ブックトークや図書室の活用だけではなく、I C Tの効果的な活用も必要になります。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	②命を大切にする教育の推進
主な取組	1 道徳教育の充実と人権教育の推進 2 いじめ防止基本方針の推進 3 教育相談の充実 4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化 5 S O S の出し方に関する教育の推進
目標	全教育活動を通じて道徳教育を推進し、児童生徒が命はかけがえのないものであることを実感し、自他の命を大切にする教育を推進します。また、様々な悩みや困難を身近な人に相談できる体制づくりを充実していきます。
事業実績 ・成果	1 道徳教育の充実と人権教育の推進【重点】（再掲） 道徳教育の充実と人権教育の推進を図るため、道徳科のみならず、学校教育全体や家庭教育において様々な取組を行っています。 このことにより、学校のみならず、家庭においても、道徳教育や人権教育の推進を図ることができました。 ・いじめ防止基本方針（各校のHPで公開） ・特別の教科道徳の授業の着実な実践 ・家庭用「彩の国の道徳」の周知 ・各中学校で生徒会主体の「人権集会」の実施
	2 いじめ防止基本方針の推進 いじめ防止対策推進委員会・定例会（11／5）にて、市内小・中学校において、「いじめ防止基本方針」に則り、適切に対応しているか協議しました。 このことにより、いじめ防止について体制についての共通理解を図ることができました。
	3 教育相談の充実 教育相談の充実を図るため、各校で開催されている教育相談連絡会に指導主事・スクールソーシャルワーカーが参加しました。また、今年度から新たに福祉課・社会福祉協議会の職員も一緒に参加し、市長部局も含めて児童生徒や家庭状況について情報交換を行いました。また、電話や面談により保護者と教育相談を行いました。 このことにより、生徒指導・教育相談上、支援を要する児童生徒を把握するとともに、指導・対応について様々な視点から助言を行うことで、早期の解決を図ることができました。 ・教育相談連絡会の実施（小学校15回、中学校12回、合計27回）
	4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化【重点】 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを小・中学校に適切に配置しました。 このことにより、小・中学生や保護者からの相談に対応し、いじめ等の早期発見・早期解決の一助となりました。 ・支援相談員（全小学校に配置 6名） ・さわやか相談員（全中学校に配置 4名） ・スクールカウンセラーの配置（全小・中学校に配置 4名〔兼務〕） ・スクールソーシャルワーカーの配置（教育支援センターに県費・市費兼務1名）

事業実績 ・成果	5 SOSの出し方に関する教育の推進 国、県通知を市内小・中学校に周知するとともに、さわやか相談員やスクールカウンセラーの適切な配置を行いました。 また、ネットトラブル等を防止し、ネットに関するSOSの出し方についての情報モラル教育を、各校の実態に応じて、外部講師を招いて実施するなど、各校の実態に応じて取り組みました。 このことにより、SOSを出しやすい環境を整備することができました。
達成度	B
学識経験者の意見	教育相談の充実のため、各校が定期的に教育相談連絡会を実施し、それに指導主事も出席し、学校と教育委員会が積極的に情報共有することにより、早期解決に努めたことを評価する。 全小学校に支援相談員を、全中学校にさわやか相談員を、さらに中学校にはスクールカウンセラーを配置することにより、いじめ防止や不登校児童生徒対策にきめ細やかに対応したことを評価する。可能であるならば、スクールカウンセラーを全中学校に毎週1日配置し、小学校にも出向くことができるような環境が整うことを願う。
課題 今後の対応方針	今後も教育相談の充実のため、各校が定期的に行う教育相談連絡会に、指導主事やスクールソーシャルワーカーが出席し、指導・助言を行っていきます。いじめ防止や不登校児童生徒対策にきめ細やかに対応するため、さわやか相談員やスクールカウンセラーを適切に配置し、小・中学校間で情報を共有し、早期に解決できるよう連携を深めていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	③いじめ防止対策の推進
主な取組	1 いじめ防止対策推進委員会の開催 2 学級経営の充実
目標	いじめ防止対策推進法に基づき、各学校で定められたいじめ防止基本方針を推進し、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに相談体制の充実を図ります。
事業実績 ・成果	1 いじめ防止対策推進委員会の開催 市内小・中学校におけるいじめ防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のため、いじめ防止対策推進委員会を開催しました。 このことにより、いじめ防止等のための有効な対策について協議を図り、小・中学校に周知することで、いじめ防止について啓発を図ることができました。 ・いじめ防止対策推進委員会（定例会） 1 回（11 / 5）開催
	2 学級経営の充実 学級経営の充実を図るため、教育相談力向上研修を実施しました。 このことにより、若手教職員の指導力向上を図ることができました。 (1) 日 時 8月4日（月）8：50～11：30 （篠津小学校） (2) 対象者 市内小中学校の教職員 (3) 趣 旨 若手教員及び経験年数の少ない教員が、教育相談力を向上させ、学級経営を充実させる方策について学び、自らの指導力を向上させる。
達成度	B
学識経験者の意見	いじめ防止対策推進委員会(定例会)を着実に実施し、協議事項を各校に周知することでいじめ防止について啓発を図ったことを評価する。この取組は、不断に継続することが何よりも大切である。学校と家庭・地域ならびに行政機関が強く連携して子ども達を見守る体制をしっかりと築いていかなければならない。 特に学校においては、いじめの未然防止・撲滅のための取組をこれまで以上に確実に推進することを強く願う。
課題 今後の対応方針	いじめ防止対策推進委員会については、今後も計画的に実施することにより、いじめ防止のための対策を学校に周知していけるよう、努めていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(2) 豊かな心、健やかな体の育成
施策の方向	④心身の健康の保持増進
主な取組	1 学校保健の充実 2 新体力テストの実施と結果の活用 3 感染症に関する指導の充実 4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化 5 ヤングケアラーの周知・支援
目標	新体力テストを実施し、その結果を分析することで児童生徒の体力向上に役立てていきます。部活動では白岡市部活動指導のガイドラインに基づいた活動を推進していきます。 また、友人関係や進路、学校生活に悩む児童生徒だけではなく、保護者も教育相談を行えるさわやか相談員を各中学校に配置するほか、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも配置します。ヤングケアラーの周知・支援なども含め、教育相談体制の充実を図っていきます。
事業実績・成果	1 学校保健の充実 学校保健の充実を図るため、白岡市小・中学校体力向上推進委員会養護部会における、健康診断結果の取りまとめを行いました。今後は、年度末までに市内小・中学校に周知する予定です。 このことにより、各校の状況と市平均を比較するとともに、保護者への啓発や児童生徒への指導に生かしています。 ・白岡市小・中学校体力向上推進委員会の開催 2 新体力テストの実施と結果の活用 新体力テストを実施するとともに、白岡市小・中学校体力向上推進委員会にて結果の分析を行いました。 このことにより、白岡市及び自校の課題を把握し、児童生徒の更なる体力向上に向け、各校において実践することができました。 ・新体力テストの全小・中学校による実施 ・白岡市小・中学校体力向上推進委員会における結果分析 3 感染症に関する指導の充実 文部科学省、埼玉県からの通知を各校へ周知するとともに、学級閉鎖を行うにあたっては、基準を明確にし、管理職との連携を図り、適切に判断・対応を行いました。 このことにより、各校における感染症の拡大を未然に防ぐことができました。 4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化【重点】 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを小・中学校に適切に配置しました。 このことにより、小・中学生や保護者からの相談に対応し、いじめ等の早期発見・早期解決の一助となりました。 ・支援相談員（全小学校に配置 6名） ・さわやか相談員（全中学校に配置 4名） ・スクールカウンセラーの配置（小学校2名、中学校に2名） ・スクールソーシャルワーカーの配置（教育支援センターに県費・市費兼務1名）

事業実績・成果	5 ヤングケアラーの周知・支援 国・県のヤングケアラーに関する通知を各校に周知しました。 また、令和7年8月5日（火）に春日部ふれあいキューブで行われた「令和7年度ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修会」に指導主事と教職員が参加し、ヤングケアラーに関する支援方法及び児童生徒への理解を深めることができました。
達成度	A
学識経験者の意見	コロナ収束後であってもインフルエンザ等他の感染症を含め基本的な対策を怠ることなく、子ども達が互いのぬくもりを感じながら本当にふれあいのある学校生活を送れる時間が続くことを願うばかりである。今後も感染症に関する指導の充実に確実に取り組んでもらいたい。 体力向上はかねてより課題であるが、「働き方改革」を推進していく上で、業前運動や運動部活動を縮小せざるを得ない状況がある。体育の授業をしっかりと見直し、限られた時間、機会を最大限に活用して体力向上に努めてもらいたい。 ヤングケアラーの問題は現在喫緊の社会問題となっている。教職員研修を一層充実させ、教職員のみならず生徒にも理解を深めさせるよう継続的に取り組んでほしい。また、学校と関係機関が密接に連携し、児童生徒の家庭状況を把握することも積極的に進めてほしい。
課題 今後の対応方針	子どもたちの体力向上、運動に親しむことが課題です。コロナ禍移行に、思うように活動できなかった時期を乗り越え、自校の課題を明確にした体育授業を行っていきます。 相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るために、適切な人員の配置と活用に取り組みます。 また、ヤングケアラーについては、子どものつぶやきに注意しながら、教員が積極的に児童生徒に関わっていきます。
評価結果	A
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(3) 教職員の資質・能力の向上
施策の方向	①教職員の資質・能力の向上
主な取組	1 人事評価制度を活用した人材育成や能力の向上 2 教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修 3 年次別研修による指導力向上 4 教職員の服務に関する研修会の実施 5 白岡市教育の日の実施
目標	教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修などの実施や、年次別研修の充実など、教職員の資質・能力の向上を図ります。また、人事評価制度を活用し、人材育成に努めます。 児童・生徒、保護者、地域から信頼される学校を目指し、教職員の不祥事根絶に向け、服務に関する研修を行います。
事業実績 ・成果	1 人事評価制度を活用した人材育成や能力の向上 市内小・中学校の校長においては、学校経営が適切に行われているかどうか、年間 3 回教育長、教育部長、教育指導課長と校長による面談を行いました。 このことにより、人事評価制度を活用し、人材育成や能力の向上を図ることができました。 ・当初面談 令和 7 年 5 月に実施 ・中間申告面談 令和 7 年 1 0 月に実施 ・達成状況面談 令和 8 年 2 月に実施
	2 教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修 教職員を対象とした I C T、情報管理等に関する研修（ipad活用事例研修）について、令和 7 年 8 月 1 日に実施しました。 このことにより、1 人 1 台端末の活用 5 年目（令和 7 年度）においても、さらなる利活用を図ることができました。
	3 年次別研修による指導力向上 各小・中学校とも、新採用、2 年次、7 年次にあたる教員及び臨時的任用教員・任期付教員（※本市で初めて任用された者）を対象に、指導力の向上を図るため、教科や道徳、特別活動についての研究授業を行いました。 このことにより、新採用、2 年次、7 年次にあたる教員等の指導力向上を図ることができました。
	4 教職員の服務に関する研修会の実施 教職員の服務に関する研修会については、夏季休業の時期に合わせて市内すべての小・中学校に指導主事が訪問し、教職員に対して直接、不祥事防止など服務に関する指導を行いました。 このことにより、教職員一人一人が不祥事をより自分事として捉えるようになりました。

事業実績 ・成果	5 白岡市教育の日の実施 白岡市教育の日の実施については、11月7日に、篠津小学校及び篠津中学校において、研究発表会を行いました。市内すべての小・中学校教員が授業を参観するとともに研究協議会や指導主事による指導・講評も行われました。 また、8月22日（金）に教職員全員研修会を実施し、次年度の発表校の中間発表を行い、指導・講評を行いました。 このことにより、菁莪小学校及び菁莪中学校の実践を他校においても活かすことができました。
達成度	A
学識経験者の意見	GIGAスクール構想を推進する上で、教職員のICT、情報管理（含セキュリティ研修）研修は欠かすことができない。本市では計画的に開催し、スキルアップを図っていることを評価する。さらには、授業の中での端末利用が「個別最適な学び」と「対話による協働的な学び」との相乗効果を生むような活用のあり方を十分に研修してほしい。 教員の質の低下が叫ばれる中、若手教員の育成は重要課題である。本市では新採用者、2年次、7年次にあたる教員の指導力を高めるため、研究授業を中心とした実践的研修を実施しており、このことを評価する。今後、授業研究を中心に「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを一層深める研修となることを願う。また、中堅教員対象のミドルリーダー育成をねらいとした研修の一層の充実にも期待するところである。 白岡市教育の日の研究発表会がコロナ禍による中止期間があったものの長年継続されていることは喜ばしいことであり、評価に値する。他校、さらには異校種の授業を市内の全教職員が実際に参観して学べる機会は決して多くはない。そして、委嘱校の実践が他校にも着実に広がり定着することを強く望む。この取組は貴重であり、今後も継続して取り組んでもらいたい。
課題 今後の対応方針	「白岡市教育の日」の研究発表会については、今後も異校種の貴重な交流の機会となるよう実施し、より一層の充実を図っていきます。教職員のICT活用能力や授業力の向上のために、授業研究を中心とした実践的な研究の機会とします。
評価結果	A
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(3) 教職員の資質・能力の向上
施策の方向	②教職員の働き方改革の推進
主な取組	1 校務のＩＣＴ化の推進や業務内容の精選 2 理科支援員、学校図書館支援員の配置 3 学校閉庁日の実施 4 持続可能な部活動の推進
目標	教職員が児童生徒と向き合うための時間や教職員自身の人間性や創造性を高める時間を確保し、より質の高い教育活動を実践することができるように支援します。そのために校務のＩＣＴ化や業務の精選に取り組むことで勤務時間の適正化を図ります。 各支援員の配置により、教職員の業務の負担軽減を行います。 中学校の部活動については、昨年度の１１月から市内の全ての中学校で休日に行っている部活動を全て地域移行しました。平日の部活動について、今年度は「篠津中女子バレーボール」１種目で実証していきます。
事業実績・成果	1 校務のＩＣＴ化の推進や業務内容の精選【重点】 ８月１日（金）に市内小・中学校の各教職員を対象に基本的な使い方や便利な使い方について研修を行いました。 このことにより、校務のＩＣＴ化の推進や業務内容の精選について共通理解を図り、各校の実践に生かすことができました。
	2 理科支援員、学校図書館支援員の配置 市内小・中学校に適切に配置し、授業準備や片付け、図書館整備などを行っています。 このことにより、教職員の負担軽減となりました。 ・理科支援員・・・市内全小中学校に配置（３名） ・学校図書館支援員…市内全小・中学校に配置（３名）
	3 学校閉庁日の実施【重点】 ８月１０日～８月１６日及び県民の日である１１月１４日を、学校閉庁日としています。 このことにより、更なる教職員の負担の軽減を図ることができました。
	4 持続可能な地域クラブ活動の推進【重点】 今年度も引き続き、持続可能な地域クラブ活動に向けて事業を進めております。 兼職兼業で指導したいという教職員も複数人いるが、外部の指導者が指導することにより、教職員の働き方改革の推進を図ることができました。
達成度	A
学識経験者の意見	教職員の働き方改革は、国をあげて早急に解決していかなければならない課題である。本市は、業務内容の精選に早くから取り組んできており、実績がある。とはいえ、中学校では部活動の指導が教職員にとって、心身の負担を強いていることは過去から現在においても否定できない。そのような課題を受け、本市では県内においていち早く４年前から持続可能な部活動の推進に取り組んできている。 現在、全中学校で全部活動が地域クラブとして移行できていることを高く評価する。部活動を地域クラブへと移行すれば、それで中学校教職員の働き方改革が完結するわけではないが、大きな歩みであり、今後も研究実践を重ね、生徒も保護者も教員も納得できる形の地域クラブを実現していかなければならない。そうしてこそ初めて生徒としっかりと向き合う時間が確保され、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに勤しむことができる。更なる加速感をもって取り組んでほしい。
課題 今後の対応方針	校務のＩＣＴ化の推進（校務支援システムの導入・会議資料等のペーパーレス化等）によるさらなる業務改善や働き方改革を進めていきます。 専門性の高い教員・支援員を配置することによる質の高い教育の提供と、教職員の負担軽減や子供と向き合う時間の確保を行っていきます。 休日の部活動における段階的な地域移行を推進します。地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」を目指します。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成
施策の方向	①家庭・地域・学校の連携・協働
主な取組	1 学校運営協議会の設置と充実 2 学校運営協議会間の連絡体制の構築 3 学校応援団活動の推進 4 幼保小連絡会 5 持続可能な部活動の推進 6 学校ホームページによる情報発信の充実 7 学校公開の実施 8 「広報しらおか」等による情報発信の充実
目標	各学校のホームページや「広報しらおか」等による情報発信を充実させるとともに、学校公開を実施し、地域に開かれた学校づくりを行います。学校応援団の活用や学校運営協議会の設置と充実、学校運営協議会間の連絡体制の構築など、家庭・地域との連携・協働を図ります。幼稚園・保育所・小学校の連絡会を実施するなど、接続期の情報交換を充実させていきます。 また、休日の部活動の地域移行を推進し、専門性を有した地域人材を活用することで、生徒がより専門的な指導を受けられるようにします。
事業実績・成果	1 学校運営協議会の設置と充実【重点】 子どもたちをよりよく育てるための学校を応援し、地域の実情を踏まえた特色のある学校づくりを進めるため、全ての学校に学校運営協議会を設置し、年間3～4回の会議を行いました。 このことにより、学校における地域住民との連携・協働体制を組織的・継続的に確立することができました。第1回の開催の際には、指導主事が会議に参加し、学校運営協議会の趣旨等について説明を行うことで、共通理解を図りました。 2 学校運営協議会間の連絡体制の構築【重点】 学校運営協議会間の連絡体制を構築するため、教育委員会が主体となり、各校の学校運営協議会をつなぐ働きかけを行いました。 このことにより、共通理解を図ることができ、各校の学校運営協議会の充実を図ることができました。会議実施後、各校が実践報告書を提出し、全校で共有しました。優良事例のみならず、上手くいかなかった事例についても共有し、今後に生かしていくことができました。 3 学校応援団活動の推進 学校応援団活動を推進するため、国・県の通知の周知を行いました。 このことにより、保護者や地域住民による学校の学習活動、安心・安全確保、環境整備などについて協力・支援の充実を図ることができました。 4 幼保小連絡会 幼・保・小の連携については、国・県通知（子育ての目安「3つのめばえ」）を周知するとともに、アプローチカリキュラム（幼稚園・保育所等における5歳児の1月～3月）、スタートカリキュラム（小学校第1学年の4～6月）を作成しています。 このことにより、幼稚園・保育所と小学校とのスムーズな接続を図ることができました。 ・幼稚園・保育所、小学校によるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの作成・見直し

事業実績・成果	5 持続可能な部活動の推進【重点】（再掲） 今年度も引き続き、持続可能な地域クラブ活動に向けて事業を進めております。兼職兼業で指導したいという教職員も複数人おりますが、外部の指導者が指導することにより、教職員の働き方改革の推進を図ることができました。
	6 学校ホームページによる情報発信の充実 各校において適時発信をしています。人事評価に係る面談においても、評価領域Ⅱ「開かれた学校づくり」の目標・方策等を確認し、適切に情報発信が行われるよう指導をしています。 このことにより、学校ホームページによる発信が適切に行われ、「地域とともにある学校づくり」が推進されています。
	7 学校公開の実施 学校公開の実施については、各校が創意工夫し、行事の公開や授業の公開など、適切に学校公開を行うことができました。
	8 「広報しらおか」等による情報発信の充実 「広報しらおか」等による例年の情報発信だけでなく、教育指導課のホームページにおいて、教育に関わる情報を広く市民に周知しています。 このことにより、学校教育について、広く市民に周知することができました。
達成度	B
学識経験者の意見	全小中学校に学校運営協議会が設置され、定期的に会議を開催し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりの推進に大きく寄与している。また、教育委員会が主体となって各学校運営協議会間をつなぐ役割を果たした。このことを高く評価する。今後は、その充実を目指し一層盤石な組織として発展することを期待する。そのために、一人でも多くの保護者、地域住民に正しく深い理解をしてもらうための啓発活動を継続的に行っていくことが大切である。
課題 今後の対応方針	全小中学校に設置となった学校運営協議会については、今後も定期的な会議の開催により、家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成を目指していきます。学校公開やホームページ、広報しらおかを活用した情報発信については、教育委員会と学校が連携し、更なる充実を図っていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成
施策の方向	②ふるさと意識の醸成
主な取組	1 埼玉の子ども70万人体験活動 2 白岡歴史・史跡研修会 3 小学校社会科副読本「しらおか」の活用 4 学校給食費の負担軽減
目標	小学校社会科副読本「しらおか」を活用し、ふるさと白岡に対する理解を深める教育の充実を図ります。白岡歴史・史跡研修会において、市内に着任した初任者を対象に白岡の歴史や文化遺産に触れる研修を実施し、教育の充実へ繋がります。 大学と連携して開発した、「SDGsの視点も踏まえた地場産物を活用したメニュー」を児童生徒に提供し、地場産物について触れる機会を提供することでふるさと意識の醸成を図ります。 また、令和7年度の重点支援地方交付金を活用し、学校給食費の一部補助を実施し、保護者の負担軽減を図ります。
事業実績・成果	1 埼玉の子ども70万人体験活動（再掲） 中学校における職場体験チャレンジや、全ての小・中学校で行われているみどりの学校ファーム等で体験活動を実施しました。 このことにより、思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観を育むなど、豊かな人間性や社会性など「生きる力」の基礎を築くことができました。
	2 白岡歴史・史跡研修会 8月1日、初任者を対象に、生涯学習課担当者による「ふるさと白岡」に係る研修を行いました。 このことにより、児童生徒を指導する教職員自ら白岡市の歴史に触れることで、ふるさと意識の醸成を図ることができました。
	3 小学校社会科副読本「しらおか」の活用 社会科副読本編集委員会を2回開催し、「デジタル副読本の課題」及び「副読本の部分改訂」、「評価テストの見直しと充実」に向け、取り組みました。 また、副読本のデジタル化を推進したことで、小学3・4年生に対して、学習指導要領に則った充実した社会科の授業展開を行うことができました。
	4 女子栄養大学と連携して考案したメニュー（まめまめモンスターしゅうまい）を令和8年3月12日に標準献立として各校で提供しました。このしゅうまいは、大豆ミートを使用した手作りのジャンボしゅうまいで、大豆ミートと豚ひき肉を併せて使用することで、児童生徒も食べやすいメニューとしました。 また、重点支援地方交付金を活用し、給食の質や量を維持したまま、保護者の学校給食費負担軽減を図りました。
達成度	B
学識経験者の意見	児童にふるさと意識を身に付けさせるためには、小学校3・4年生での社会科授業で郷土理解を深めさせるところが大きい。とりわけ社会科副読本「しらおか」の活用は大切である。副読本の編集に際し、編集委員会を定期的に開催し現場の教員の声を反映させて編集していることは意義がある。特に、県内でもいち早くデジタル版を作成し、それをタブレット端末により活用していることを評価する。 女子栄養大学学校給食・食育研究室と連携し、SDGsの視点も踏まえた地場産物を活用した献立を給食で提供することで、児童・生徒のふるさと意識の醸成を図っていることを評価する。また、重点支援地方交付金の活用により、給食の質・量を維持した上で、保護者の学校給食費負担の軽減を図ったことを評価する。

課題 今後の対応方針	小学校社会科副読本「しらおか」の活用については、今後も編集委員会を定期的を開催していくことにより、教職員の声を反映させ、子ども達の学びが深まる資料となるよう、充実を図っていきます。埼玉の子ども70万人体験活動については、地域の人材を活用し、充実した活動となるよう、実施方法や内容について検討を進めていきます。 実際に児童・生徒に対し、開発したメニューを提供し、地場産物について触れる機会を増やす必要があります。今後は、市制施行記念や学校給食月間など、ふるさと白岡と関りのある際に提供し、地場産物に触れる機会を増やしていけるよう努めてまいります。また、SDGsの視点を踏まえた献立の提供を続けていきます。 そして、物価高騰が続く中、給食の質・量を維持した学校給食の提供を続けられるように、献立の工夫に努めます。
評価結果	B
担当課	教育指導課・教育総務課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備
施策の方向	①教育環境の整備・充実
主な取組	1 1人1台端末の利活用に向けた学校の通信環境の整備 2 職員による学校施設の安全点検の実施 3 白岡市立学校適正規模・適正配置計画に関する「将来ビジョン」のとりまとめ【重点】
目標	安定した通信環境の整備、児童・生徒の活用促進のため、GIGAスクールサポーターやICT支援員を適切に配置します。 児童・生徒が安心安全に学校生活を送ることが出来るように市職員による安全点検（月2校）を継続して実施し、危険箇所等がある場合には未然に防ぐように努めます。 将来ビジョンは、児童生徒数・学級数の将来推計、多面的な実態把握、学校施設・運営面での教育課題を踏まえ、適正規模、適正配置、求められる学習環境、教職員の働き方などを整理しながらとりまとめます。
事業実績・成果	1 1人1台端末の利活用に向けた学校の通信環境の整備 学校の通信環境の整備のため、学校からの修理依頼等に対し、GIGAスクールサポーターやICT支援員が適切に対応しました。 このことにより、児童生徒が1人1台端末を活用した学習を進めることができました。また、NEXTGIGAに向けての整備を進めていきました。 (1) GIGAスクールサポーター1名 (2) ICT支援員3名 2 職員による学校施設の安全点検の実施 職員による安全点検については、各校において計画的に実施しました。 点検の結果、危険箇所については速やかに対応措置を行うとともに、必要に応じて適正な修繕へとつなげました。また、直ちに対応を要しない事項については、継続的な経過観察を行いました。 これらの取組により、児童生徒が安心して学習・生活できる教育環境の安全性の確保を図ることができました。 【主な保守管理（小・中学校共通）】 ・自家用電気工作物保安全管理 ・消防用設備保守点検 ・給水施設保守管理 ・警備業務委託 ・貯水槽清掃 ・自動体外式除細動器（AED）リース ・スズメバチ駆除 【小学校の主な修繕等】 ・市立小学校ブルー床面点検による修繕 ・消防設備点検不良箇所修繕 ・西小学校北側門扉設置工事 ・白岡東小学校非常放送設備修繕 ・菫菰小学校アンダーパス排水ポンプ更新工事 ・ガス漏れ警報器修繕 ・小学校児童用机・椅子修繕 【中学校の主な修繕等】 ・消防設備点検不良箇所修繕 ・中学校生徒用机・椅子修繕

事業実績 ・成果	3 白岡市が目指すこれからの学校のあり方を示す「将来ビジョン」の策定 将来ビジョンの策定に向けて、以下の取組を実施しました。その結果、学校を取り巻く現状や課題を的確に反映した、関係者の納得感の高い将来ビジョンを策定することができました。 (1) 白岡市立学校適正規模・適正配置審議会の開催回数：7回 (2) 魅力ある学校づくりシンポジウムの開催回数：2回 (3) 学校運営協議会への説明 ・篠津小学校：2回 ・西小学校：2回 ・白岡東小学校：2回 ・篠津中学校：2回 ・白岡中学校：2回 ・菁莪小・中学校：2回 ・南小・中学校：2回 (4) 白岡市立小中学校の教育に関するアンケートの実施 ア 対象：児童生徒の保護者、教職員、学校運営協議会、児童、生徒、 未就学児の保護者、市民 イ 配布数：8,580件（市民を除く） ウ 回収数：4,230件（市民を除く） エ 回収率：49.3%（市民を除く）
達成度	B
学識経験者の意見	学校の通信環境を適切に整備することで、児童生徒の端末を利用した学習が充実できたこと、またNEXTGIGAに向けて整備を進めていることを評価する。 職員による安全点検を計画的かつ定期的に実施し、迅速な修繕に努めることで児童生徒の教育環境の安全性を確保できたことを評価する。 学校適正規模・適正配置計画に関する「将来ビジョン」のとりまとめにおいて、審議会を立ち上げ計画的に開催できたことを評価する。併せて学校運営協議会での説明やアンケートの実施、及び教育シンポジウムの開催などで市民の啓発を図り、理解を求めたことを高く評価する。
課題 今後の対応方針	学校の通信環境の整備のため、学校からの修理依頼等については、GIGAスクールサポーター1名及びICT支援員1名で対応していますが、年度末の新年度に向けた更新作業等の繁忙期については、GIGAスクールサポーター2名を追加で任用するとともに、端末更新作業マニュアルを作成する等、移行作業を適切に行った結果、スムーズに整備を進めることができました。 施設老朽化という課題に対しては、継続した安全点検を実施し児童・生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう努めます。 将来ビジョンで整理した課題やこれからの学校のあり方を踏まえ、「学校適正規模・適正配置等計画」の策定に取り組み、令和8年度中の完成を目指します。 計画策定に向けての課題は、いかに市民の方々に関心を持っていただき、納得感のある計画内容を構築できるかという点です。今後の対応として、広報しらおかや市公式ホームページ、市公式LINE等を通じた多角的な情報発信に加え、シンポジウムや市民説明会を丁寧で開催し、市民の方々との対話を通じて理解と合意形成を図っていきます。 策定プロセスにおいては、審議会での議論を重ね、子どもたちにとってよりよい教育環境の構築を目指します。
評価結果	B
担当課	教育指導課・教育総務課・魅力ある学校づくり推進室

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備
施策の方向	②安全安心の確保
主な取組	1 安全教育の推進 2 各校での危機管理マニュアルの見直し 3 実効的な避難訓練の実施 4 防犯パトロールと防災しらおかの放送による安全の呼びかけ 5 学校メール配信システムによる不審者情報等の周知 6 子ども110番の家の設置の推進 7 スクールガードリーダー・防犯ボランティアによる見守り
目標	頻発する自然災害や感染症対策等を踏まえ、各校での危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、実効的な避難訓練を実施するなど児童生徒が自らの命を守ることができるよう防犯・防災教育を推進していきます。 また、スクールガードリーダー、防犯ボランティアなどとともに、地域ぐるみで子どもたちの安全を守ることができるようにします。
事業実績・成果	1 安全教育の推進【重点】 安全教育の推進について、市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、校長会・教頭会においても、学校の施設・設備を含めた安全管理の徹底について指導を行いました。 このことにより、現時点では大きな事故もなく、学校運営が行われています。 また、学校においては、学級活動や保健体育の授業、交通指導員による交通安全教室（横断歩道の渡り方、自転車の乗り方）など、学校教育全体で安全教育が行われています。 2 各校での危機管理マニュアルの見直し 各校での危機管理マニュアルの見直しについて、市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、校長会・教頭会においても、学校の危機管理マニュアルの定期的な見直しを図るよう指導を行いました。見直し後のマニュアルは、教育指導課で確認しています。 このことにより、現時点では大きな事故もなく、学校運営が行われています。 3 実効的な避難訓練の実施 市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、校長会・教頭会においても、内容の見直し等において指導を行いました。 このことにより、より実効性のある避難訓練（休み時間における地震）を実施することができました。 4 防犯パトロールと防災しらおかの放送による安全の呼びかけ 防犯パトロールと防災しらおかの放送による安全の呼びかけについて、今年度教育指導課職員による防犯パトロールは行っておりませんが、防災しらおかの放送については、庁舎の火災後については児童による録音はできなくなったものの、定時での放送を行い、下校後の安全について注意喚起を行っています。 このことにより、児童生徒の安全確保について、児童生徒や保護者、地域住民への啓発を図ることができました。 5 学校メール配信システムによる不審者情報等の周知 学校メール配信システムによる不審者情報等の周知については、教育指導課に入った不審者情報等を学校に周知し、学校から保護者に対しメール配信を行っています。 このことにより、保護者への啓発を図ることができました。

事業実績 ・成果	6 子ども１１０番の家の設置の推進 校長会・教頭会において、児童生徒へ「子ども１１０番の家」の理解・促進を図るよう指導しています。 このことにより、児童生徒一人一人が、登下校時の安全確保（自分の身は自分で守る）について理解を深めました。 ・子ども１１０番の家登録件数 ３２０件（令和７年３月３１日現在）
	7 スクールガードリーダー・防犯ボランティアによる見守り スクールガードリーダー・防犯ボランティアによる見守りについて、市内小・中学校に国・県通知の内容を周知するとともに、スクールガードリーダーによる見守り報告を確認し、実効性のある取組となるよう指導を行っています。 このことにより、さらなる安心・安全への体制を整えることができました。 ・市内全ての小学校に、１人ずつスクールガード・リーダーを配置
達成度	B
学識経験者の意見	教育委員会が主体となって、校長会・教頭会において、施設設備を含めた安全管理の徹底について指導を行ってきたことで大きな事故なく学校運営が行われていることを評価する。また、学校教育全体で児童生徒への安全教育が行われ、大きな事故が起きていないことを評価する。しかしながら、今後さらに予想される交通事情の悪化を考えると、小学校高学年から中学生の自転車の乗り方の啓発指導の充実は一層必要である。
課題 今後の対応方針	子どもたちの安心・安全のため、引き続き地域の方々の協力を得ながら、今後も防犯パトロールなどの充実を図り、子どもたちを見守っていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	①特別支援教育の充実
主な取組	1 特別支援学級の整備 2 通級指導教室の充実 3 教育補助員の活用・拡充 4 指導主事等による巡回相談 5 就学支援委員会の開催 6 インクルーシブ教育の推進 7 特別支援学校のセンター的機能の活用
目標	県立特別支援学校のセンター的機能を活用し、特別な支援が必要な児童生徒への支援方法の充実、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、特別支援学級の整備や通級指導教室の充実を推進します。
事業実績 ・成果	1 特別支援学級の整備 各小・中学校に特別支援学級を適切に設置するため、学校との連携や保護者との就学相談を実施しました。 このことにより、各校において、児童生徒の特性に応じた特別支援学級を整備することができました。 ・篠津小（知的学級 2、自閉情緒学級 1、難聴言語通級指導教室 2） ・青莪小（知的学級 1、自閉情緒学級 1） ・南 小（知的学級 2、自閉情緒学級 2） ・西 小（知的学級 4、自閉情緒学級 3、発達障害・情緒障害通級指導教室 1） ・白岡東小（知的学級 1、自閉情緒学級 1、発達障害・情緒障害通級指導教室 1） ・篠津中（知的学級 1、自閉情緒学級 1） ・青莪中（知的学級 1、自閉情緒学級 1） ・南 中（知的学級 1、自閉情緒学級 1） ・白岡中（知的学級 2、自閉情緒学級 2）
	2 通級指導教室の充実 通級指導教室の充実を図るため、通級指導教室設置校（篠津小、西小、白岡東小）と、児童の在籍校で指導の記録を共有しました。 このことにより、現在の状況について在籍校が適切に把握することができ、対象児童への指導・対応に生かすことができました。 ・篠津小（難聴言語通級指導教室 2）※令和 7 年度新たに 1 教室増設 ・西小（発達障害・情緒障害通級指導教室 1） ・白岡東小（発達障害・情緒障害通級指導教室 1）
	3 教育補助員の活用・拡充 補助員等を適切に配置・活用できるよう、教育補助員が、毎日業務内容を記録するとともに月末には教育指導課において確認しています。内容によっては、校長に指導する等、より適切な運用を行いました。 このことにより、児童生徒への指導・対応が適切に行うことができました。 ・生活補助員（小・中学校） 22 名 ・支援相談員 6 名 ・さわやか相談員 4 名
	4 指導主事等による巡回相談 指導主事や就学支援委員会委員による巡回相談（児童生徒の状況確認、教職員への指導）を行いました。 このことにより、特別に支援を要する児童生徒への適切な指導・対応について共通理解を図ることができました。 ・全小・中学校に対して実施（小学校 7 回、中学校 5 回）

事業実績 ・成果	5 就学支援委員会の開催 就学支援委員会を年間4回開催 このことにより、児童生徒一人一人の教育的ニーズ（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室）に応ずることができました。
	6 インクルーシブ教育の推進 インクルーシブ教育の推進を図るため、交流学級及び支援学級学習を行いました。 このことにより、より一層特別支援教育への理解を深めることができました。 ・各学校における交流学級の実施 ・支援学級交流の実施（篠津小学校、菁莪小学校、南小学校、西小学校、白岡東小学校、白岡中学校）
	7 特別支援学校のセンター的機能の活用 特別支援学校のセンター的機能を活用するため、久喜特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携を図りました。 このことにより、児童生徒の現状を把握し、指導・対応について、教職員へ助言等を行うことができました。 ・全小・中学校への巡回相談の実施（小学校7回、中学校5回）
	8 特別支援教育研修会 奥山こどもクリニック院長の奥山力氏を指導者として招き、医療の視点から見た特別な配慮が必要な児童生徒への対応に関する研修を行いました。 事例に基づいた支援会議を行うことで、支援方法や保護者や関係機関との連携について理解が深まりました。 ・第1回（12月18日）第2回（1月22日）第3回（2月19日） 第4回（3月5日）
達成度	B
学識経験者の意見	全小・中学校に特別支援学級を設置し、教育補助員の活用や県立特別支援学校との連携、計画的な巡回指導等により特別支援教育の充実を図っていることを評価する。また、近年の状況を踏まえて通級指導教室（難聴言語）を今年度増設し、市内4学級となった。各教室で対象児童の指導が適切に行われていることを評価する。一方でこの教室を担当する教員には高い専門性が必要なので継続的に研修を行ってほしい。さらに、長期的視点をもって通級指導教室を担当できる教員の育成に努めてほしい。
課題 今後の対応方針	通級指導教室「こすも」「すばる」、言葉の教室の3つを担当する教員は、高い専門性が求められます。常日頃から研修への参加や、自己研鑽を積まなくてはなりません。また、全小・中学校の特別支援学級を担当する教員にも同じことが言えます。子どもたちを取り巻く環境、社会情勢の変化に適応することが求められています。 今後も特別支援学校のセンター的機能を活用した巡回相談や特別支援教育研修会を活用しながら、担当指導教員の資質・能力の向上に努めてまいります。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	②不登校児童生徒への支援
主な取組	1 教育支援センターの充実 2 教育相談の充実 3 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化
目標	様々な理由から不登校となっている児童生徒やその保護者、教職員からの相談に応じ、適切な支援を行っていくため、引き続き相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制の充実を図ります。 また、不登校児童生徒の社会的自立に向けた集団適応指導、学習指導等を行い、教育支援センターの充実に努めます。
事業実績・成果	1 教育支援センターの充実【重点】 教育支援センターの充実を図るため、市内小・中学校の不登校児童生徒数や各校の教育相談件数等を鑑み、適切な人員を配置しました。また、令和4年度から常勤の所長を任用するとともに、長期休業中においても、相談業務を行いました。 このことにより、教育支援センターにて、児童生徒の学習支援、保護者相談、発達検査等、適切な運営を行いました。 ・現在21名（小学校3名・中学校18名）の児童生徒が通室 ・所長1名、支援員5名・臨床心理士2名、スクールソーシャルワーカー1名を配置 ・令和7年度から新たにカウンセラー1名を配置
	2 教育相談の充実（再掲） 教育相談の充実を図るため、各校で開催されている教育相談連絡会に指導主事が参加しました。 また、電話や面談により保護者と教育相談を行いました。 このことにより、生徒指導・教育相談上、支援を要する児童生徒を把握するとともに、指導・対応について助言を行うことで、早期の解決を図ることができました。 ・教育相談連絡会の実施（小学校15回、中学校12回、合計27回）
	4 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と連携強化【重点】（再掲） 相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを小・中学校に適切に配置しました。 このことにより、小・中学生や保護者からの相談に対応し、いじめ等の早期発見・早期解決の一助となりました。 ・支援相談員（全小学校に配置6名） ・さわやか相談員（全中学校に配置4名） ・スクールカウンセラーの配置（全小・中学校に配置4名〔兼務〕） ・スクールソーシャルワーカーの配置（教育支援センターに県費・市費兼務1名）
達成度	B
学識経験者の意見	不登校児童生徒数の増加は、国全体で見ても大きな課題となっている。本市では教育相談体制の充実を図って対応しているが、特に教育支援センターの役割は大きい。適切な人員配置や常勤の所長を任用するなどして着実な運営ができていることを評価する。
課題 今後の対応方針	不登校児童生徒数は年々増加しています。不登校の要因は様々であり、個に応じた対応をしていくことが求められます。 今後も教育相談体制を見直し、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーをはじめ、各学校との連携を強化していきます。また、教育支援センターと密に連携を取り、不登校児童生徒の支援の拠点として機能するように対応していきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	③外国人児童生徒・帰国児童生徒への支援
主な取組	1 児童生徒の日本語指導の補助
目標	日本語指導が必要な児童生徒に対して、日本語指導教員及び日本語指導補助員を配置できるよう必要な人材を確保し、支援の充実を図ります。
事業実績 ・成果	1 児童生徒の日本語指導の補助 児童生徒の日本語指導のため、県費の日本語指導教員 1 名、市費の会計年度任用職員を 2 名配置しました。 このことにより、対象児童生徒の日本語活用能力の向上を図ることができました ・篠津小学校・・・対象児童 8 名 ・菁莪小学校・・・対象児童 2 名 ・南 小学校・・・対象児童 3 名 ・西 小学校・・・対象児童 1 名 ・篠津中学校・・・対象生徒 1 名 ・南 中学校・・・対象生徒 3 名
達成度	B
学識経験者の意見	本市においても外国人児童生徒数は年々増加している。対象児童生徒が一日も早く級友との仲を深め、学級に適応できるよう日本語指導補助員を適切に配置していることを評価する。今後は、多様化が一層進むことが予想されるので多くの言語に対応できるよう人材を確保しておくことが望まれる。
課題 今後の対応方針	外国人児童生徒数は年々増加しており、通常の学校生活においても言葉の壁により学校生活に支障をきたしている児童生徒が増えてきています。今現在、週に 1～2 回個別指導により日本語を指導する時間を設けていますが、今後はその指導によってどの程度の成果があったのか、またどのように子供が変容したかについても把握し、更なる指導の向上につなげていきます。
評価結果	B
担当課	教育指導課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	2 学校教育の充実
施策項目	(6) 多様なニーズに応える教育活動
施策の方向	④経済的支援
主な取組	1 就学援助制度 2 特別支援教育就学奨励制度 3 入学準備金貸付制度
目標	経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して、就学援助制度、特別支援就学奨励制度、入学準備金貸付制度などの支援制度があります。これらの制度の周知に努め、保護者の経済的負担の軽減を図ります。
事業実績 ・成果	1 就学援助制度（白岡市就学援助費の受給者に臨時給付金支給事業を併せて実施） 経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者に対して、経済的負担を軽減するため、就学援助費を支給しました。 このことにより、経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に対し、適切に支援することができました。 就学援助費【3月末日現在】 ・小学校（要保護児童数 8名、準要保護児童数 163名） 10,859,776円 ・中学校（要保護生徒数 2名、準要保護生徒数 87名） 10,312,179円 ・入学前支給（支給対象者数 12名） 684,720円
	2 特別支援教育就学奨励制度 特別支援学級在籍の特殊性を考慮し、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、世帯の所得状況に応じ、就学奨励費を支給しました。 本制度については、特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対して制度の概要を通知し、周知に努めました。 このことにより、保護者の経済的負担の軽減を図ることができました。 ・小学校 2,463,566円（3月末日現在76名） ・中学校 861,479円（3月末日現在19名）
	3 入学準備金貸付制度 広報しらおか11月号及びホームページにおいて貸付けのお知らせを掲載するとともに市立中学3年生の保護者全員にチラシを配布し、制度の周知を図りました。また、入学準備金の調達が困難な方へ貸付できるよう白岡市入学準備金貸付審査会審査基準要領を見直し、標準的な例をホームページに掲載しました。 12月15日から1月14日までの間、申請の相談及び受付を行いました。申請はありませんでした。
達成度	B
学識経験者の意見	本市では、経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して就学援助制度、特別支援就学援助制度、入学準備金貸付制度などを講じて経済的支援を行っていることを評価する。 今後も市民・保護者へ制度の周知を進めてほしい。
課題 今後の対応方針	就学援助制度については、義務教育の円滑な実施を図るため、真に援助を必要とする児童生徒の保護者に対して、必要な援助が適切な時期に受けられるよう、引き続き就学援助制度の周知に努めていきます。 特別支援教育就学奨励制度については、特別支援教育の普及奨励を図るため、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図られるよう、引き続き就学奨励制度の周知に努めていきます。 入学準備金貸付制度について、社会福祉協議会で教育支援金貸付や埼玉県等に類似して市の制度より汎用性がある制度があるため、市の入学準備のための貸付制度はある程度、所期の目的を達成したと考えます。 国の政策で、令和8年度から高校の授業料の無償化が開始されることに伴う影響なども考慮し、今後この制度自体を残すのか、形を変えるのか等について検討します。
評価結果	B
担当課	教育指導課・教育総務課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	①生涯学習活動の推進
主な取組	1 ペアーズ！しらおかの拡充 2 社会教育委員会議の開催 3 生涯学習情報の提供 4 社会教育関係団体の支援・利用促進 5 公民館講座の充実 6 生涯学習機能、図書館機能、資料館機能の連携
目標	ペアーズアカデミーや公民館講座のほか、生涯学習センター「こもれびの森」の各機能の連携による事業や関係機関との連携による事業を実施し、「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して市民の多様なニーズに対応した学習メニューや生涯学習に関する情報の提供を推進します。 また、社会教育関係団体の支援や利用促進を図り、市民の生涯学習活動を推進します。
事業実績・成果	1 ペアーズ！しらおかの拡充【重点】 生涯学習事業の基幹となる、ペアーズアカデミーをはじめ、多種多様な内容の講座を開催することで、市民に対し広く学習の機会を提供することができました。 ・ペアーズアカデミー 5講座 16回 延べ284名 2 社会教育委員会議の開催 市の社会教育行政について、社会教育委員を通して、広く市民の意見を反映することができました。 第1回会議 令和7年 7月10日(木) 第2回会議 令和7年 11月13日(木) 第3回会議 令和8年 3月26日(木) 3 生涯学習情報の提供 「いつでも・どこでも・だれでも」楽しく学び合える生涯学習を推進しています。 市民の学習意欲の高まりと学習ニーズの多様化に応えるため、「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して生涯学習情報を提供しました。 また、ボランティア精神をふまえた指導者や市内で生涯学習活動を行っている団体の情報を広く市民に提供できるよう「ペアーズバンク」を設置し、ペアーズバンクの情報を市公式ホームページに掲載し、生涯学習関連事業への市民参加意欲の向上を図りました。 (1) 「広報しらおか」、市公式ホームページ及びSNSなどを活用して生涯学習関連事業を案内しました。 (2) ペアーズバンク ア リーダー 延べ30名 イ サークル 33団体 4 社会教育関係団体の支援・利用促進 補助金の交付により、各分野における社会教育関係団体の活動の充実、発展に寄与することにより、団体活動を支援することができました。【4団体】 ・白岡市PTA連絡協議会 ・白岡市子ども会育成連絡協議会 ・白岡市人権教育推進協議会 ・「町ぐるみん白岡」

事業実績 ・成果	5 公民館講座の充実【重点】 地域の学習拠点として、これまでの講座参加者からのアンケートなどの意見を参考に様々な講座を開催するとともに、要望の多い講座を開催するなど、市民に多様な学習の機会を提供することができました。 (1) 公民館前期（6～9月）講座（全14講座58回開催、延べ591名参加） <令和6年度参考：全14講座51回開催、延べ516名参加> ア 運動分野 4講座 計20回開催 延べ202名参加 イ 生活分野 1講座 計4回開催 延べ12名参加 ウ 趣味分野 2講座 計6回開催 延べ47名参加 エ IT分野 2講座 計12回開催 延べ172名参加 オ 夏休み子ども講座 2講座 計4回開催 延べ25名参加 カ 市民企画講座 3講座 計12回開催 延べ133名参加 (2) 公民館後期（10～3月）講座（全13講座62回開催、延べ660名参加） <令和6年度参考：全18講座72回開催、延べ782名参加> ア 運動分野 6講座 計33回開催 延べ353名参加 イ 趣味分野 4講座 計13回開催 延べ116名参加 ウ IT分野 2講座 計12回開催 延べ165名参加 エ 市民企画講座 1講座 計4回開催 延べ26名参加
	6 生涯学習機能、図書館機能、資料館機能の連携 生涯学習機能、図書館機能、資料館機能の連携した講座等の開催により、市民の生涯学習活動の推進を図ることができました。 (1) 生涯学習機能、図書館機能の連携 各講座実施時に関連図書の展示 (2) 生涯学習機能、資料館機能の連携 ア ペアーズアカデミー（再掲） ・連携講座「感じて！縄文土器の温もり～掘り起こされた白岡遺産～」 11月6日、13日、20日（全て木曜） 延べ42名 イ 親子おもしろミュージアム（ウィークエンドいきいき体験教室事業共同開催） ・藍のたたき染め教室 8月2日 16名 ・まゆ玉でおひな様を作ろう 2月28日 8名 (3) 図書館機能、資料館機能の連携 ギャラリー企画展 （暮らしを支えた木綿と生糸～紡ぎ、織りなす白岡遺産～）連携おはなし会 10月26日、11月9日 延べ24名
達成度	B
学識経験者の意見	生涯学習活動の中で「ペアーズアカデミー」を5講座、公民館の前期講座14講座、後期講座13講座など積極的に多様で市民の意向やニーズに合わせたメニューを市民に提供していることを評価する。今後も趣味の講座をはじめ環境や人権、IT、国際問題など今日的な課題も取り上げて取り組んでほしい。また、公民館講座の市民企画講座なども継続してほしい。 生涯学習情報の提供では、多様な年齢層の人たちにも情報を届ける手段として、インターネットや広報の充実、ポスター等の活用を工夫して、「いつでも、どこでも、だれでも」学べるようにするために確実な情報を分かり易く、幅広い年齢層の市民に届けてもらいたい。 本市の生涯学習施設は、生涯学習機能、図書館機能、資料館機能をあわせ持っている。この特色を生かした施設間の連携として、生涯学習機能と資料館機能の連携としてペアーズアカデミーの連携講座や親子おもしろミュージアム、図書館機能と資料館機能の連携したギャラリー企画展の開催を評価する。今後も継続してほしい。
課題 今後の対応方針	引き続き、市民の多様なニーズに対応した学習メニューを提供してまいります。 また、中央公民館では、利用者・利用団体の減少が課題であるため、仲間づくり及びサークル化につなげられるような講座を開催していきます。 生涯学習に関する情報提供については、広報しらおかのほかに市公式ホームページや市公式LINEの活用を図り、多くの市民が情報を得ることができるよう努めていきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	②生涯学習施設・設備の充実
主な取組	1 生涯学習センターの適正な維持管理 2 中央公民館の適正な維持管理 3 生涯学習センター〔こもれびの森〕内ギャラリー（企画展示室）の利用促進
目標	生涯学習センター〔こもれびの森〕及び中央公民館の適正な維持管理を行い、市民の生涯学習活動の場を提供します。幅広いニーズに対応したサービスの提供を図るとともに、家庭・地域・学校などと連携した生涯学習環境の充実に努めます。 また、生涯学習センター〔こもれびの森〕内ギャラリー（企画展示室）を市民や市内で活動する文化・芸術団体の成果発表の場として利用促進を図ることにより、それらの活動を支援します。
事業実績・成果	1 生涯学習センターの適正な維持管理 (1) 令和7年度入館者数 307, 033名 (2) 自衛消防活動により火災等の被害を最小限にとどめるため、消防訓練を実施しました。 上半期 10月30日に、消火訓練、通報訓練、避難訓練を消防署の立合いがない中で実施しました。 下半期 3月26日に、消防署の立合いによる消火訓練、通報訓練、避難訓練を実施しました。 職員に対する防災教育の効果が上がるとともに、初期消火をはじめとする自衛消防活動の重要性を認識することができました。 2 中央公民館の適正な維持管理 地域住民の生涯学習推進の拠点として、適切な管理運営を図ることができました。 ・令和7年度の来館者数 7,436団体 56,028名 (令和6年度の来館者数：5,294団体 38,663名) (2) 火災等の被害を最小限にとどめ、安心安全な施設を目指すため、職員及び受付業務の派遣職員と合同で防災・消防訓練を実施しました。 消火器の設置場所や避難経路を再確認するなど、防災意識の向上を図ることができました。 上半期 8月22日 10名参加 下半期 3月13日 8名参加 (3) 災害時の指定避難所であることから、施設の老朽化が顕著なため、必要最小限の修繕を実施し、適正な維持管理を図りました。 ・講堂冷房ラインポンプ取替修繕 ・講堂客席部分照明ランプ取替修繕 ・消火栓用ホース交換修繕 ・自家用電気工作物コンデンサ交換及び低濃度PCB含有調査 ・1階給湯室流し排水高圧洗浄 ・電気陶芸窯部品修繕 ・ロビー照明ランプ取替 ・消防設備修繕 ・2階トイレ換気扇修繕 ・学習室2ガラス修繕 ・鋼製建具ドアクローザー修繕

事業実績 ・成果	3 ギャラリー（企画展示室）の利用促進 ギャラリー（企画展示室）は、市主催の企画展示のほか、芸術・文化などの分野において、精力的に創作活動を行っている市民や、市内で活動されているサークルの方々による発表の場としています。 利用頻度が高く、今年度は20団体から利用申請を受け、利用期間はほぼ埋まっている状況であり、利用者のバランス、希望に応えるためのギャラリー利用調整会議を年2回開催し、計画的なギャラリーの利用を推進しました。
・成果	B
学識経験者の意見	本市においては、昨年5月6日の庁舎火災により庁舎機能の一部として約半年の間、生涯学習センターの多くの施設が使用された。また、公民館においても市議会議場として講堂が使用されたり、市主催会議の会場として使用された。これらのことにより、公民館利用者が急増し、施設が利用しにくくなったこともある。今後はこれらを教訓として生涯学習施設の維持管理に努めてほしい。 生涯学習センター〔こもれびの森〕は生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点として親しまれ、広く利用されている。一方、公民館においてはさまざまな講座やサークル活動に利用されているが、施設面では老朽化などの課題もある。公民館は多くの利用者がおり、また災害時の緊急避難場所でもあることから、必要な修繕や改修は怠らないよう配慮をお願いしたい。 両施設とも多くの利用者が安心安全に施設を利用できるように、今後も施設の適正な維持管理に務めてほしい。また、消防訓練は今後も定期的に継続して実施してほしい。
課題 今後の対応方針	生涯学習センター〔こもれびの森〕及び中央公民館ともに適正な維持管理を行い、市民に対し生涯学習の場を提供します。 また、市民が安心・快適に利用できる生涯学習の場としての環境を整備する必要があるため、細やかなメンテナンスを実施しています。 しかしながら、中央公民館については、開館から47年が経過し、施設の老朽化が顕著であることから、大規模改修等について検討が必要となります。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	③図書館機能の充実
主な取組	1 計画的な資料の収集、提供 2 レファレンスサービスの充実 3 多様なニーズに対応したサービスの充実 4 バリアフリーサービスの充実 5 図書館資料、設備を活用した多種多様な学びの機会の提供 6 市民との協働による事業の実施
目標	情報収集の拠点として、効率的、計画的な資料の収集と提供を行うとともに、市民の誰もが利用しやすく、必要な情報を得られるよう、図書館サービスの充実を図ります。 社会や時代に即した図書のテーマ展示や、多種多様な学びの場の提供を行います。
事業実績・成果	1 計画的な資料の収集、提供 資料収集方針に基づき、様々な内容、形態の資料を収集することで、市民の幅広いニーズに対応することができました。 (1) 総資料数 174,652点 (2) 貸出人数 115,242人 (3) 貸出点数 390,587点 2 レファレンスサービスの充実 レファレンスサービスの提供により、市民の学習・研究活動を支援することができました。 レファレンス件数 2,617件 3 多様なニーズに対応したサービスの充実 これまで公民館のみで実施していた予約資料の受取サービスについて、新たに勤労者体育センター、コミュニティセンター、大山庁舎においてサービスを開始しました。このサービスに加え、市内公共施設への返却ボックスの設置、コンビニエンスストアにおける返却資料の受取サービスにより、利便性向上が図られ、市民の図書館利用を促すことができました。 (1) 公共施設における予約資料受取サービスの拡充 中央公民館のみで実施していたものを勤労者体育センター、コミュニティセンター 大山庁舎でも実施 (2) 返却ポストの公共施設への設置 (3) コンビニエンスストアにおける資料返却サービスの実施 (4) 図書館だより「こもれび通信」の発行 5回(4月、6月、8月、10月、12月、2月) 4 バリアフリーサービスの充実 読書補助具の設置や、図書館の利用支援により、様々な理由から図書館の利用や読書に障がいのある市民の読書活動を支援することができました。 (1) 読書補助具(リーディングトラッカー、リーディングルーペ)の設置 (2) 障がいを持つ利用者に対する図書館利用支援

事業実績 ・成果	5 図書館資料、設備を活用した多種多様な学びの機会の提供 東洋大学の講師派遣事業を活用した文学講座等、図書館に関連した講座の開催により、市民の生涯にわたる学習を支援するとともに、図書館利用を促進することができました。 (1) 文学講座（東洋大学講師派遣事業共催） 「『源氏物語はおもしろい！』－『女房』が見た、聞いた、そして喋った－」 10月25日 33名 (2) 歴史講座「近世白岡の領主たち」 12月4日、11日 延べ46名 (3) ファンファンシネマ（映画観賞会） 3回 延べ91名 (4) テーマ展示 ア 児童と一般を対象に季節や年間行事等とテーマとした図書の展示 イ 子ども司書や職場体験の中学生によるテーマ展示 (5) 日本工業大学との連携事業 「日本工業大学の先生がすすめる本」の展示（常設） 6 市民との協働による事業の実施 図書館ボランティアの養成・連携強化を図るとともに、図書館ボランティアとの連携による事業を実施することで、地域に根ざした図書館サービスを提供することができました。 (1) 図書館ボランティアとの連携による事業の実施 ア おはなし会、ちいさい子のおはなし会 毎月第1～3金曜日、第2～4土曜日 イ こもれびの森まつり ウ 興善寺幼稚園図書館見学 1月15日 76名 (2) 図書館ボランティアの養成 ア 図書館ボランティア体験講座 2月7日、14日 延べ12名 イ 図書館ボランティア活動日 毎月第3土曜日
達成度	B
学識経験者の意見	こもれびの森の図書館は、いつも大勢の利用者で盛況である。このことは貸出人数や貸出点数に反映され、多くの人に親しまれていることがわかる。これは充実した施設環境、図書資料だけではなく、常に多様なニーズ対応したサービスの充実、バリアフリーサービスの向上など、利用者目線のサービスの向上に心がけている成果であり、高く評価したい。欲を言えば、様々な利便性の向上を広く知ってもらう工夫もほしい。 図書館資料、施設を活用した学びの機会の提供についても、文学講座、歴史講座、ファンファンシネマをはじめ多様な学びの提供についても評価したい。文学講座では東洋大学講師派遣事業の活用や日本工業大学との連携など創意工夫が見られる。今後も継続して進めていただきたい。 おはなし会など図書館ボランティア活動も活発で図書館事業をよく支えている。「広報しらおか」で特集を掲載するなど積極的にボランティア活動を推進する意欲を評価する。今後も持続的な活動ができるようボランティアの養成にも努めてほしい。 図書館機能の充実、目標に掲げた事項を十分に満たしているものであり、今後継続して業務に望んでほしい。
課題 今後の対応方針	今年度は市内公共施設の協力により、予約資料の受取サービスを拡充することができましたが、今後はこのサービスについてより一層の周知を図り、市民の利用拡大を図っていきます。 図書館に関する事業については、令和8年10月から指定管理者が担っていくこととなります。今後は、指定管理者のノウハウを活用することで、これまで取り組んできたサービスや事業等について内容の向上・発展を図るとともに、指定管理者の創意工夫により新たな取組を実施し、市民に多様なサービスを提供していきます。 これまで図書館の様々な事業で連携・協働を図ってきた図書館ボランティアの活用、育成は今後も継続して行っていく必要があります。市と指定管理者が一体となって図書館ボランティアとの関係の構・維持、円滑な連携を図っていきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	④子どもの読書活動の推進
主な取組	1 図書館における子どもの読書活動の推進 2 家庭・地域・学校等における子どもの読書活動推進の支援 3 子どもの読書活動を推進する体制の整備 4 子どもの読書活動推進に関する啓発・広報の充実
目標	子どもや親子を対象とした事業を実施するとともに、家庭や地域、学校等において子どもたちが自主的に読書に親しめるよう支援します。 地域、学校等、図書館の連携強化を図り、子ども読書活動推進計画を着実に推進します。
事業実績 ・成果	1 図書館における子どもの読書活動の推進 子どもが楽しみながら本とふれあうことができる事業を実施することで、子どもたちに幅広い分野の本との出会いや、物語の面白さを体験する機会を提供することができました。 (1) おはなし会 おはなし会（3歳以上対象） 36回 延べ528名 ちいさい子のおはなし会（0～3歳対象） 35回 延べ804名 (2) 夏休み子ども講座 「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」 7月24日、25日 41名 (3) 子ども司書養成講座 8月8日、9日 延べ10名 (4) 子ども司書活用事業 毎月第3土曜日 (5) 第12回しらおか本の帯・POPコンクール 応募作品数：本の帯部門217点、POP部門543点 作品展示（入賞作品、一次審査通過作品）：12月12日～12月26日 (6) 図書館本の福袋 乳児、未就学児、小学生を対象に50袋を配布 1月6日 (7) 日本工業大学との連携事業 11月22日開催のこもれびの森まつりにおいて実施 「サイエンス縁日ーふしぎ実験で学ぼうー」
	2 家庭・地域・学校等における子どもの読書活動推進の支援 絵本を介した親子のふれあいを支援するブックスタート事業等により、家庭や学校等における子どもの読書活動の推進を支援することができました。 (1) 家庭における子どもの読書活動推進の支援 ア ブックスタート（ブックスタートパックの配布と読み聞かせ） 12回 283組 イ お父さんと一緒に本を読もう！ 5月25日、8月31日、11月30日、2月22日 延べ17名 (2) 学校等における子どもの読書活動推進の支援 ア 学校等への団体貸出、学校巡回サービスの実施 イ ブックトーク 1件（篠津小学校）
	3 子どもの読書活動を推進する体制の整備【重点】 市が一体となった子どもの読書活動推進に向け、地域・学校等との連携を強化することができました。 (1) 図書館ボランティア連絡会議の開催 9月25日、1月22日 (2) 白岡教育研究会専門部学校図書館部会への参加
	4 子どもの読書活動推進に関する啓発・広報の充実 子どもの読書週間にあわせたイベント開催や市内小学校の図書館見学の受入等により、子ども達の図書館や読書に対する関心を高めることができました。 (1) こどもの読書週間における事業 「みんなとばそう！紙ひこうき！」 5月5日 20名 (2) 図書館見学、職場体験の受入 ア 図書館見学受入 小学校1校13名、幼稚園2園96名 イ 職場体験受入 中学校4校16名、特別支援学校1校4名
達成度	B

学識経験者の意見	活字離れが進む中で、子どもの読書活動の推進は重要な事業である。図書館における子どもの読書活動の推進では、おはなし会の開催では3歳以上対象が36回延べ528名、0～3歳児対象が35回延べ804名と多くの参加者を得ている。また、夏休み子ども講座「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」、「子ども司書養成講座」、子ども司書活用事業などの取組みにおいて、幼児や子どもたちに図書館や本に対する興味や関心を深めることが成果としてあげられる。 家庭・地域・学校等における子どもの読書活動の推進の支援では、ブックスタート、お父さんと一緒に本を読もう、学校等への読書活動の推進として学校等への団体貸出、ブックトークなどの事業実施について評価する。今後は一層の周知を図り、参加者の拡大を望む。 子ども読書活動を推進する体制の整備、啓発・広報の充実については、図書館を核とした家庭、地域や学校等との連携を一層強化していくことが望まれる。
課題 今後の対応方針	子どもたちが楽しみながら本と触れ合うことができる事業等の開催により、引き続き、子どもの読書活動の推進を図っていきます。併せて、これまで子どもの読書活動の推進のために連携・協力を行ってきたボランティアや学校、幼稚園だけでなく、これまで関わりのなかった新たな団体、組織等、地域の幅広い主体との連携に取り組んでいきます。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実
施策の方向	⑤枠組みを超えた生涯学習活動の連携強化
主な取組	1 こもれびの森まつりの開催 2 各種計画との連携によるイベントの開催
目標	こもれびの森まつりや、各種計画との連携によるイベントを開催するとともに、地域、学校などと協働を推進し、生涯学習活動の連携強化に努めます。
事業実績 ・成果	1 こもれびの森まつりの開催 市役所周辺を会場とした市の新たなイベント「しらおか秋の彩りフェスタ」の一部として開催しました。外部組織や市民ボランティア、近隣大学との連携・協働により、多様な事業を実施することができました。また、イベントのスケールメリットにより、生涯学習センターを利用したことがないかたに施設や様々な取組みについてPRを行うことができ、生涯学習センターの利用促進を図ることができました。 11月22日(土) 約3,500名 各事業の内容等 ア 牛乳パック工作 イ ミュージアム・クイズ ウ あんぎん編み体験(2回) エ おはなし会(3回) オ 古本市 カ 布の作品の販売 キ 「サイエンス縁日ーふしぎ実験で学ぼうー」
	2 各種計画との連携によるイベントの開催 各種計画との連携、地域、学校などとの協働による講座の開催により、市民の生涯学習の機会を提供することができました。 (1) 各種計画との連携 ア 子ども・子育て支援事業計画及び環境基本計画 ・自然観察会 全3回 延べ95人 夜の昆虫観察会 7月12日(土) 5組14人 甲虫の標本を作ろう 8月24日(日) 7組15人 ひこべえの森冬のつどい 12月13日(土) 66人 イ 子ども・子育て支援事業計画及びしらおかはびすイチプラン ・田んぼの学校 全4回(連続講座) 延べ20組56人 田植え体験 天候不順により中止 田んぼの自然観察 6月8日(日) 7組23人 稲刈り体験 9月7日(日) 6組14人 しめ縄づくり・お米の試食会 11月9日(日) 7組19人 ・わいわい料理教室 全3回 延べ13組36名 ピザづくり 7月12日(土) 5組14人 7月26日(土) 3組 9人 うどん打ち 9月27日(土) 5組13人 (2) 学校等との協働事業 ア 市内中学校 ・自然観察会 ひこべえの森冬のつどい 12月13日 66名 篠津中学校 0名、菁莪中学校 10名、南中学校 11名、 白岡中学校 1名 イ 日本工業大学 ・「サイエンス縁日ーふしぎ実験で学ぼうー」 ・「親子で工作、サイエンスショーを楽しもう」
達成度	B

学識経験者の意見	「こもれびの森まつり」は「しらおか秋の彩りフェスタ」の一部として市役所周辺会場で好天にも恵まれ終日賑わいをみた。さまざまな催しに大勢の参加者を得て大きな成果を上げた。今年の「こもれびの森まつり」の会場が1階東側入口付近にまとまっていたため、図書館内や歴史資料館には人の流れが昨年のような多さではなかったようである。 図書館周辺の「こもれびの森まつり」では、市民ボランティア団体、日本工業大学などの参加協力を得て、盛りたくさんの催しが行われていた。日本工業大学の「サイエンス縁日-ふしぎ実験で学ぼう」では、電気の仕組みをわかりやすく説明しており、来場者は興味を示し満足していたようである。このように専門的知識を持つ教授からの説明は子どもたちに刺激を与えることと思われ、科学に興味を持つ子どもが誕生するかもしれない。この催しは普段、図書館に足を向けない人たちにも、図書館施設や歴史資料館を理解いただく良い機会であったと評価する。
課題 今後の対応方針	「しらおか秋の彩りフェスタ」では多種多様なイベントが開催され、多くの市民に来場いただきました。「こもれびの森まつり」でも様々なイベントを開催したが、生涯学習センターに足を運んでもらうためには、より魅力あるイベントの企画や積極的な周知を図っていく必要があります。 日本工業大学との連携・協力については、これまでの取組みを継続、発展させていくとともに、新たな取組みの実現に向けて連絡、協議を行ってまいります。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(2) 人権教育の推進
施策の方向	①人権教育推進体制の充実
主な取組	1 白岡市人権教育推進協議会研修会の開催 2 各種人権教育研修会への参加 3 “じんけん” ふれあいコンサートの開催
目標	市人権教育推進協議会研修会等を開催し、人権教育の推進を図ります。 また、各種人権教育研修会の参加及び“じんけん” ふれあいコンサートの開催では、多くの市民が参加できるような開催方法について検討し、人権教育を推進する体制の充実に努め、人権意識の高揚を図ります。
事業実績・成果	1 白岡市人権教育推進協議会研修会の開催 白岡市人権教育推進協議会理事会後に研修会を実施しました。 いじめ問題を「学校教育」の観点から捉えることや、子どもが権利の主体であることを踏まえて意見を聴くことの重要性等、子どもの最善の利益を第一に考えた対応や傍観者とならないための行動について理解を深め、人権意識の高揚が図られました。 (1) 演 題 「いじめ問題と子どもの権利」 (2) 日 時 令和7年7月23日（水）午後1時30分から3時まで (3) 参加人数 57名 2 各種人権教育研修会への参加 埼葛地区人権教育推進協議会等との連携を通じ、ヤングケアラーや若者の生きづらさなど、多様化する人権課題に対する職員の意識向上を図りました。 (1) 埼葛地区人権教育推進協議会総会並びに研修会 ア 内 容 講演「ヤングケアラーの現状と必要な支援を考える」 講師：堀越栄子氏 イ 日 時 令和7年7月15日（火） (2) 東部地区人権教育実践報告会 ア 内 容 東部地区の各小中学校の人権教育実践報告を聴講 イ 日 時 令和7年7月28日（月） (3) 埼葛地区人権教育指導者研修会 ア 内 容 DVD「あなたのいる庭」視聴 講演「子ども若者の生きづらさ」（講師：青砥恭氏） イ 日 時 令和7年11月27日（木） 3 “じんけん” ふれあいコンサートの開催【重点】 第1部では、市内小中学校の児童・生徒による人権作文の発表および表彰式を行いました。第2部では、右手に「局所性ジストニア」を発症するという試練に見舞われながらも左手のみで演奏活動を行うピアニストの戸澤早百合氏を招き、ふれあいコンサート『ピアノが紡ぐ歌の物語』を開催しました。 不屈の精神で困難を乗り越え、力強く音楽に向き合う戸澤氏の姿と演奏を通じて、誰もが自分らしく生きることの尊さや、多様なあり方を尊重し合うことの大切さを学ぶきっかけとなり、人権教育の重要性を再認識することができました。 (1) 内 容 （第1部）人権作文発表会・表彰式 （第2部）コンサート（左手のピアニスト戸澤早百合氏） (2) 日 時 令和8年1月24日（土） (3) 参加人数 181名
達成度	B

学識経験者の意見	白岡市人権教育推進協議会研修会では、弁護士の川原祐介氏を招いて「いじめ問題と子どもの権利」と、学校の対応や保護者の対応について、具体的な事例等を交え分かりやすく解説された。社会問題にもなっている「子どものいじめ」に対する正しい理解が深められたと思われる。今後も様々な人権問題に視点をあてた取組みを続けてほしい。 “じんけん”ふれあいコンサートは1月24日に、こもれびの森多目的ホールで行われた。第1部の人権作文発表では、市内小中学校の児童・生徒による人権作文の発表と表彰式が行われた。小学生3名、中学生2名の作文発表は、アンケート結果にもあるように聞こえた方には差別や平和についての作文に感動したとの意見が多かった。しかし、一方では発表が聞こえなかったとの意見も多かった。また、後方では発表者の顔もよくわからなかった。これは、来場者だけでなくせっかく練習して発表した方にも失礼にあたる。このことを教訓に来年度の開催にあたっては、発表しやすく、聞きやすい会場づくりに徹してもらいたい。 第2部の「ふれあいコンサート」は、ピアニスト戸澤小百合さんのコンサート『ピアノが紡ぐ物語』が行われた。戸澤さんは右手に「局所性ジストニア」を発症し、「左手のみで奏でる音楽」に新たな表現の道を見出し、演奏活動を行っている。難病にも負けず不屈の精神とその演奏は多くの観衆の心に響いたようだ。
課題 今後の対応方針	白岡市人権教育推進協議会研修会等においては、引き続き社会問題となっている事象等、様々な人権問題に視点を当てたテーマを取り上げることで、継続的な理解促進と人権意識の高揚を図ります。 また、“じんけん”ふれあいコンサートにおける人権作文発表については、来場者及び発表者双方にとってより良い環境となるよう、発表しやすく聞きやすい会場設営や音響等の運営方法の改善に努め、人権問題への関心を深める有意義な機会とします。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(2) 人権教育の推進
施策の方向	②啓発活動の充実
主な取組	1 “じんけん” ふれあいコンサートの開催 2 「広報しらおか」「市公式ホームページ」などで人権教育・人権問題の啓発を実施 3 児童・生徒の人権作文集や各種啓発パンフレットの作成・配布
目標	“じんけん” ふれあいコンサートの開催やリーフレット等を作成・配布します。 また、「広報しらおか」や「市公式ホームページ」などでの人権教育・人権問題の啓発の実施や白岡市老人クラブ連合会の総会等で人権講話を行うなど、啓発活動の充実を図ります。
事業実績・成果	1 “じんけん” ふれあいコンサートの開催【重点】（再掲） 第1部では、市内小中学校の児童・生徒による人権作文の発表および表彰式を行いました。第2部では、右手に「局所性ジストニア」を発症するという試練に見舞われながらも左手のみで演奏活動を行うピアニストの戸澤早百合氏を招き、ふれあいコンサート『ピアノが紡ぐ歌の物語』を開催しました。 不屈の精神で困難を乗り越え、力強く音楽に向き合う戸澤氏の姿と演奏を通じて、誰もが自分らしく生きることの尊さや、多様なあり方を尊重し合うことの大切さを学ぶきっかけとなり、人権教育の重要性を再認識することができました。 (1) 内 容 (第1部) 人権作文発表会・表彰式 (第2部) コンサート (左手のピアニスト戸澤早百合氏) (2) 日 時 令和8年1月24日(土) (3) 参加人数 181名
	2 「広報しらおか」「市公式ホームページ」などで人権教育・人権問題の啓発を実施 12月4日からの人権週間に合わせて、人権啓発記事「互いの個性を認め合う社会へ～『性の多様性』について考えてみませんか～」を、市公式ホームページに掲載しました。 性の多様性を個性としてとらえ、一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、誰もが自分らしく安心して暮らせるまちづくりを呼びかけるなどして、人権意識の高揚を図りました。 12月4日掲載
	3 児童・生徒の人権作文集や各種啓発パンフレットの作成・配布 啓発品を作成し、窓口や各種研修会において配布 人権作文・標語集を作成し、市内小・中学校に2月に配布しました。
達成度	B
学識経験者の意見	本市においては人権問題の啓発として、“じんけん” ふれあいコンサートの開催や児童・生徒の人権作文集、各種啓発パンフレットを作成配布している。この人権作文集は、本市の子どもたちが人権問題という課題に向き合ってきた成果であり、人権問題について正しい理解と考え方をもち、身近な問題として考える啓発の場となったはずである。各学校での取り組みについて評価したい。 人権教育の啓発事業として「“じんけん” ふれあいコンサート」を開催しているが、各種団体での人権講話のような機会を増やして、積極的に機会を捉えた啓発活動を望みたい。 「広報しらおか」「市公式ホームページ」などでの人権教育・人権問題の啓発については、マンネリ化を避けながら、また様々な人権問題に関心が向けられるよう一層の工夫を望みたい。
課題 今後の対応方針	各種団体等における人権講話の機会を増やすなど、機会を捉えた多様な対象に向けた啓発活動を積極的に展開し、人権問題について身近に考える場を提供します。 また、広報しらおかや、市公式ホームページ等での情報発信については、マンネリ化を避け、市民が様々な人権問題に広く関心を向けられるよう、表現や掲載内容の一層の工夫を継続して行います。併せて、児童・生徒が人権問題に向き合う成果である人権作文集等の作成・配布を通じた啓発活動も引き続き推進します。
評価結果	B
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	①文化財の総合的把握の促進
主な取組	1 分野ごとの調査精度の向上 2 仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進 3 「総合的な把握」の手法を生かした調査の推進 4 身近な文化財に気づき、誇りを持って守り伝える取組の支援 5 把握した文化財の活用を視野に入れた情報の共有化の促進 6 市民協働での調査活動やワークショップの促進
目標	これまで文化財分野ごとに行われてきた調査活動の精度を高めるとともに、行われてこなかった分野の調査活動を推進します。また、調査対象の多角的な検討や、調査成果の分野横断的な検討を行い、文化財の総合的な把握に努めることで、市民のシビックプライドの醸成を図ります。
事業実績・成果	1 分野ごとの調査精度の向上 各分野の文化財調査を推進することで、調査成果を蓄積することができました。 (1) 埋蔵文化財本発掘調査 3件 ア 清左衛門遺跡第9地点（彦兵衛） 6月12日～7月5日 イ 入耕地遺跡第17地点（白岡） 10月23日～12月10日 ウ タタラ山遺跡第12地点（白岡） 11月27日～12月2日 (2) 埋蔵文化財試掘調査 20件 (3) 出土遺物整理事業 通年 タタラ山遺跡、山遺跡ほか (4) 発掘調査報告書作成・刊行 『タタラ山遺跡（第12地点）・山遺跡（第10・13・17地点）』 (5) 自然科学分析 山遺跡第10地点出土土器種実圧痕自然科学分析 (6) 諸資料の調査・整理 ア 松原英一家旧蔵文書ほか寄贈資料 14件 イ 安楽寺所蔵文書ほか寄託資料 2件 (7) 企画展図録、歴史資料館紀要の刊行
	2 仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進【重点】 継続して仏像調査を推進することで、調査成果を蓄積することができました。 (1) 仏像調査 2か寺1回 ア 寶鏡寺（荒井新田） 6月5日 イ 正泉寺（柴山） 6月5日
	3 「総合的な把握」の手法を生かした調査の推進 今までの調査研究とワークショップ等の成果をまとめることで、新たな白岡遺産として、「小久喜さら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」を認定することができました。 白岡市文化財保存活用地域計画で提示した関連文化財群のストーリーを踏まえ、ストーリー2の「二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏」のセルフガイドを作成し、構成文化財の周知を図るとともに、今後の文化財調査の足がかりとしました。
	4 身近な文化財に気づき、誇りを持って守り伝える取組の支援 文化財の管理と適切な伝承を行うため、文化財収蔵施設の維持管理に努めました。 観福寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で野牛地区の文化財の一般公開を行うことで、シビックプライドの醸成に資することができました。 市内の文化財を収蔵している生涯学習センター3階の一般収蔵庫及び特別収蔵庫、寄贈・寄託による館蔵資料の燻蒸作業を実施しました。 指定文化財標柱改修事業として、興善寺の標柱3本の塗り直しを実施しました。

事業実績・成果	5 把握した文化財の活用を視野に入れた情報の共有化の促進 把握した文化財について、速やかに整理を進めることで、今後の活用に備えることができました。 埋蔵文化財調査においては、調査後の図面と写真及び出土遺物の基礎整理作業を実施しました。 仏像調査においては、調査後の調書と写真の整理を実施しました。 寄贈・寄託を受けた歴史資料や民俗資料については、目録の作成と写真記録を実施しました。 寄託資料の中で、損傷が激しい資料について、所有者の承諾を得た上で保存修復を行いました。今年度は大久保家文書「北条氏繁判物」と齋藤家文書「御鷹場絵図」について実施しました。 6 市民協働での調査活動やワークショップの促進 今までの調査研究の成果をまとめることで、観福寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で野牛地区の新井白石関連文化財の一般公開を行うことができました。 3や4同様、今後も関連文化財群のストーリーを踏まえながら、構成文化財を補強するための調査を順次進めていきます
達成度	A
学識経験者の意見	本市では県内に先駆けて、「白岡市文化財保存活用地域計画」の策定や「白岡市文化財保存活用市民会議」を立ち上げ、先進的に文化財調査・保護・活用事業を推進していることを評価したい。 分野ごとの調査精度の向上では、埋蔵文化財関連では発掘調査、試掘調査、報告書作成・刊行、さらに歴史資料館の企画展図録、歴史資料館紀要の刊行など、少数職員体制の中での実施を高く評価したい。 仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進では、仏像調査を寶鏡寺と正泉寺の2か寺で実施し、着実に調査を進められた。 「総合的な把握」の手法を生かした調査の推進では、新たな白岡遺産として「小久喜ささら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」が認定された。また、セルフガイドの作成は構成文化財の周知と共に今後の調査の足がかりとして評価したい。 市民協働での調査活動やワークショップの促進では、今までの調査の成果を踏まえ、観福寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で野牛地区の新井白石関連文化財の一般公開が行われたことを評価したい。
課題 今後の対応方針	文化財の保存活用の根幹となる、調査成果を蓄積していくため、今後も計画的な調査を実施します。 調査成果の地域還元については、報告書の刊行のみならずガイドブックの刊行や一般公開を通して、広く市民に働きかけます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	②歴史文化の保存と継承
主な取組	1 活用頻度の高い文化財の複製作成の推進 2 文化財伝承活動の適切な支援 3 地域と協力した適切な防災体制の構築 4 消防との情報交換体制の整備 5 白岡市文化財保存活用地域計画に関する理解の促進
目標	文化財の確実な保存と継承のために3つの取組を推進します。 1 文化財の管理と適切な伝承活動 2 文化財に関する防災・防犯活動 3 文化財保護のための体制整備
事業実績・成果	1 活用頻度の高い文化財の複製作成の推進 館蔵資料の整理を進め、複製作成すべき資料を抽出しています。 2 文化財伝承活動の適切な支援 補助金を交付することで、適切な支援を行うことができました。 指定文化財管理・修理に対する補助金交付 2件 ・山車提灯の張り替え（篠津天王様の山車・神山耕地） ・山車提灯の補充（篠津天王様の山車・横宿耕地） 3 地域と協力した適切な防災体制の構築 文化財防火訓練を実施することで、消防や地域との連携を深めることができました。 ・旧大山尋常小学校校舎（荒井新田）1月27日 参加者32名 4 消防との情報交換体制の整備 3であげた文化財防火訓練を共同で実施することができました。さらなる連携に努めています。 5 白岡市文化財保存活用地域計画に関する理解の促進 白岡市文化財保存活用地域計画に基づく「白岡遺産」をテーマとした企画展示や白岡遺産の作り方講座を開催することで、「白岡遺産」の周知を図ることができました。 白岡遺産保存活用市民会議定期総会後に公開講演会を開催しました。 また、第2期白岡市文化財保存活用地域計画の作成作業を進めました。 (1) 企画展「感じて！縄文土器の温もり～掘り起こされた白岡遺産～」 10月13日～11月30日 (2) 白岡遺産の作り方講座 7月21日、8月17日、9月21日、10月19日 延べ21名 (3) 白岡遺産保存活用市民会議定期総会及び公開講演会 6月1日 参加者28名 (4) 白岡市文化財保存活用地域計画策定協議会 7月2日、10月29日、3月27日 (5) 地域計画文化庁協議 6月4日、9月4日、11月7日
達成度	A

学識経験者の意見	「白岡市文化財保存活用地域計画」に基づき着実に諸事業を実施していることを評価したい。 文化財の確実な保存と継承の取組の「文化財の文化財の管理と適切な伝承活動」では、複製すべき資料の抽出や指定文化財に対する補助金交付などを実施しているが、今後も継続して取り組んでほしい。 歴史文化の保存と活用のためには防災体制の構築は欠かせない。そのような中での「文化財防火訓練」が旧大山尋常小学校校舎を会場に消防組合や地域住民の参加を得て実施されたことは市民の文化財に対する防災意識の高揚に寄与している。今後は災害が発生した時に備えた文化財救出マニュアルの等の整備も進めてほしい。 「白岡市文化財保存活用地域計画」に関する理解促進では、「白岡市文化財保存活用市民会議」と連携して総会後に公開講演会を実施したり、歴史資料館の企画展で「白岡遺産」をテーマとしたり、新たな白岡遺産を目指した白岡遺産の作り方講座を実施するなど今後の展開が楽しみである。
課題 今後の対応方針	文化財の防災に関する取り組みは、令和8年度から計画期間の「第2期白岡市文化財保存活用地域計画」においても、重点的に向き合うべき課題の一つであると認識しております。 文化財所有者や消防と連絡を取り合いながら、文化財防災体制の構築を着実に進めてまいります。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	③歴史文化の情報発信・普及活用の充実
主な取組	1 文化財調査の成果の速やかな公開 2 理解しやすく、親しみやすい文化財資料の公開 3 学校との連携強化の促進 4 歴史資料館事業の充実 5 W e bを活用した情報発信の促進 6 文化財を活用した様々なイベントの推進
目標	文化財の調査成果の速やかな公表、理解しやすく親しみやすい情報発信に努めます。歴史資料館の充実や文化財を活用した様々なイベントの開催、また観光協会などと連携した新たな普及活動に努め、市民の郷土の歴史文化に対する興味関心を深めます。
事業実績・成果	1 文化財調査の成果の速やかな公開 埋蔵文化財については、毎年度発掘調査報告書を刊行しているほか、調査成果を速報として市ホームページに掲載することで、広く周知を図ることができました。 2 理解しやすく、親しみやすい文化財資料の公開 資料画像について利用希望者の求めに応じ、テレビ番組等への画像提供を行ったり、講師派遣事業について資料を用いたりすることで、文化財と市民との距離を縮めることができました。 (1) 外部への資料提供 資料貸出1件、資料利用・画像提供9件 (2) 講師派遣 職員出前講座4件、歴史学習支援事業2件、指導者派遣4件 (3) 歴史的公文書の整理・目録の作成 3 学校との連携強化の促進 絵画展や歴史学習支援事業を行うことで、学校との連携を強化することができました。 歴史資料館常設展示の最終コーナー「明日を創る」に展示する児童生徒の「未来の白岡」絵画展の公募を学校に対して行い、最優秀作品を展示しました。 文化財のうち、特に児童生徒の歴史学習活動に有効なものを学校に持参し、教材として活用する「歴史学習支援事業」の実施希望を照会し、今年度は2件の事業を実施しました。 (1) 縄文時代・弥生時代の人々の暮らし 7月1日 白岡中学校1年生 (2) 古い道具と昔の暮らし 1月21日 白岡東小学校3年生 4 歴史資料館事業の充実 歴史資料館事業を継続して行うことで、文化財の活用を図ることができました。 (1) 歴史資料館主催展示 計5回 ア 企画展「感じて！縄文土器の温もり～掘り起こされた白岡遺産～」 10月13日～11月30日 イ 巡回展示「新井白石の村政～野牛領主としての横顔～」 4月27日～6月1日 会場：歴史資料館 8月21日～9月9日 会場：J R白岡駅自由通路 9月11日～30日 会場：中央公民館 ウ 季節展示「暮らしの中の戦争～戦時下の白岡～」 8月3日～10月5日 エ 季節展示「今年は午年 何事もウマくいくように」 1月16日～2月28日 (2) 定例展示解説会「ハンズ・オン・デイ」 計12回 4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、 10月18日、11月22日、12月20日、1月17日、2月21日、3月21日 (すべて土曜日) (3) 親子おもしろミュージアム ア 藍のたたき染め教室 8月 2日 16名 イ 繭玉でお雛様を作ろう 2月28日 8名 (4) ペアーズアカデミーにおける連携講座 1講座3回 企画展との連携講座 11月6日、13日、20日 延べ42名 (5) 資料館だより『のよみち』の発行 年4回 (6) 企画展図録、歴史資料館紀要の刊行

事業実績 ・成果	5 Webを活用した情報発信の促進 市公式ホームページを活用し、文化財調査成果の公開することで、歴史資料館実施事業の事前周知と事後報告についても情報発信を行うことができました。 市公式ホームページ中の市所蔵文化財の基礎的情報を掲載するデジタルアーカイブズを更新しました。
	6 文化財を活用した様々なイベントの推進 4であげた歴史資料館におけるイベントのほか、学習支援担当と連携することで、ペアーズアカデミーにおいて文化財に関する講義を実施することができました。 文化財保存団体や文化財愛護団体が実施するイベントについても連携・協力を努めました。
達成度	A
学識経験者の意見	文化財調査の成果の速やかな公開では、埋蔵文化財の発掘成果をいち早く市ホームページに掲載している。また、白岡遺産に関する文化財情報は、今後も「広報しらおか」掲載するなどして市民への普及活動を継続してほしい。 学校との連携強化の促進では、「未来の白岡」の絵画展に優秀作品の展示をした。「歴史学習支援事業」では、小学校、中学校それぞれ1校で文化財の実物を持参して実施した。こうした活動が歴史資料館をより一層身近なものとして感じてもらえる機会となることを期待したい。 歴史資料館事業の充実では、企画展「感じて！縄文土器の温もり」の開催、巡回展「新井白石の村政」を中央公民館など三会場で実施、定例展示解説を12回開催、資料館だより『のよみち』の発行、企画展図録、歴史資料館紀要の刊行などの大きな成果は上げた。 このように歴史文化の情報発信・普及活用の充実については、様々な取組みが着実に実施され、大きな成果として高く評価したい。 なお、今後も継続的な事業展開を推進していくには、現在の少ない職員体制では困難と思われるので専門的知識を持った職員体制の強化を望みたい。
課題 今後の対応方針	文化財情報の発信や普及啓発事業は、登録博物館である歴史資料館を拠点として、今後も多様な事業を継続して実施してまいります。 地域への愛着やシビックプライドを育むためにも、学校教育との連携が、今後、一層望まれます。
評価結果	A
担当課	生涯学習課

白岡市教育委員会の点検・評価シート

施策目標	3 社会教育の充実
施策項目	(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進
施策の方向	④市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用
主な取組	1 特色ある地域の伝統行事の発掘の促進 2 地域の行事を地域で支える仕組みづくりの促進 3 担い手同士のネットワーク化の促進 4 周囲から支える仕組みづくりの促進 5 市民や地域団体の提案による文化財保護の取組の促進
目標	特色ある伝統行事を後世に伝えるために、地域の行事を地域で支える仕組みづくりを促進します。「白岡遺産」制度をその中核として、市民が主役となりうる文化財保護の仕組みづくりを促進します。 また、地域が主体となって行う取組を地域の事業者、企業などが支援し、新たな取組の創造や、団体同士の支えあいの仕組みづくりを支援することで、市民や地域団体が主体的に文化財を守り伝えていく提案型の文化財保護の仕組みづくりを促進します。
事業実績・成果	1 特色ある地域の伝統行事の発掘の促進 「白岡遺産」制度の中核を担う組織である白岡遺産保存活用市民会議の運営に係る各種を開催したことで、白岡遺産の掘り起こしと磨き上げを図ることができました。 (1) 白岡遺産保存活用市民会議設立総会及び記念講演会 6月1日 参加者28名 (2) 白岡遺産保存活用市民会議理事会 4月26日、6月1日、9月21日 2 地域の行事を地域で支える仕組みづくりの促進 1 同様に白岡遺産保存活用市民会議を主体として取り組んでいく予定です。 3 担い手同士のネットワーク化の促進 1 同様に白岡遺産保存活用市民会議を主体として取り組んでいく予定です。 4 周囲から支える仕組みづくりの促進 白岡遺産保存活用市民会議との共催で、文化財の一般公開や市民会議広報誌を作成したことで、広く周知を図ることができました。 (1) 野牛地区文化財一般公開 10月4日 39名 (2) 白岡遺産保存活用市民会議だより3号 300部発行 (3) 白岡遺産セルフガイドブック2 2,000部発行 5 市民や地域団体の提案による文化財保護の取組の促進 ワークショップ等を通し、市民提案型の文化財保護制度の定着を図ることができました。 今までの調査研究とワークショップ等の成果を踏まえ、新たな白岡遺産として、「小久喜さら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」が認定されました。 また、白岡遺産保存活用市民会議との共催による白岡遺産の作り方講座の開催によって、市民提案による新たな白岡遺産候補の検討を行いました。 ・白岡遺産の作り方講座 7月21日、8月17日、9月21日、10月19日 延べ21名
達成度	A

学識経験者の意見	「白岡市文化財保存活用地域計画」を市民参加で具現化する組織として、「白岡遺産保存活用市民会議」が設立され、諸事業が推進していることを評価したい。 白岡遺産保存活用市民会議との共催で観福寺の協力を得て実施した文化財の一般公開では、39名の方が参加された。また、白岡遺産セルフガイドブック2が刊行予定であり、今後の文化財理解と愛護に役立つことを期待したい。市民会議広報紙の「白岡市文化財保存活用市民会議だより」の発行をとおし多くの市民方への普及活動にも注目したい。 白岡遺産保存活用市民会議との共催による白岡遺産の作り方講座や自主的なワークショップを開催し、市民提案による新たな白岡遺産として「小久喜ささら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」が認定されたことを評価する。今後も市民や地域団体の担い手同士のネットワーク化や連携・協同による歴史文化の保存・活用をさらに推進してほしい。
課題 今後の対応方針	令和8年度から計画期間の「第2期白岡市文化財保存活用地域計画」においても、市民との協働を持続可能な形で推進していくための取組を数多く設定しております。 「地域の文化財を地域の手で守る」というスローガンを体現していくため、今後も、白岡遺産保存活用市民会議をはじめとした市民団体との連携を強化してまいります。
評価結果	A
担当課	生涯学習課